

京都三大学教養教育共同化事業

2019年度 報告書

時代が求める新たな教養教育



京都三大学教養教育研究・推進機構

目 次

京都三大学教養教育共同化による「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践	2
--------------------------------------	---

ごあいさつ

京都府立大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	3
京都工芸繊維大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	4
京都府立医科大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	5

第1部 教養教育共同化の展開

(1) 2019 年度取組の到達点	6
(2) 2019 年度三大学教養教育共同化の取組	9

第2部 時代が求める新たな教養教育像の探求

(1) 2019 年度のリベラルアーツセンターの活動を総括して	14
(2) 教育 IR センターからの総合報告 - 2019 年度 -	16
(3) 三大学教養教育共同化意見交換会	22
(4) 三大学学生交流企画「学生がつくる!! グッとくる授業」	25

第3部 共同化科目の授業研究

(1) 三大学共同化教養教育で環境の講義を担当して (科目名: 環境問題と持続可能な社会)	28
(2) アクティブラーニングを利用した多角的な宗教の学び (科目名: 比較宗教学)	31
(3) 三大学教養教育における人文地理学の取り組み (科目名: 人文地理学)	33
(4) ドイツ人学生と学ぶドイツ語と文化 (科目名: 映画で学ぶドイツ語と文化)	37
(5) 「聞き書きエッセイ」の計画と手順、工夫 (科目名: 文芸創作論)	39
(6) 横のつながりを創る社会科教育 - 丸山真男『日本の思想』の精読を通じて - (科目名: 社会科学の学び方)	41

資料編

(1) 2019 年度京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿	44
(2) 会議の審議状況	44
京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート (様式)	46
京都三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート (様式)	47

京都三大学 教養教育共同化による 「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践

背景

地球環境の危機や一地域の変化が全世界の人々に影響を与えるほどのグローバル化の進展により、社会全体の枠組みが大きくかつ急激に変化している。

加えて、東日本大震災は多くの尊い命を奪い、生活や産業に深刻な打撃を与えるとともに、それに併発した原子力発電所の事故は暮らしとエネルギーの問題を投げかけるなど、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

また一方、被災地では、住民同士の助け合いや国内外からのボランティアによる救援・復興活動が展開されており、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」が再認識されている。

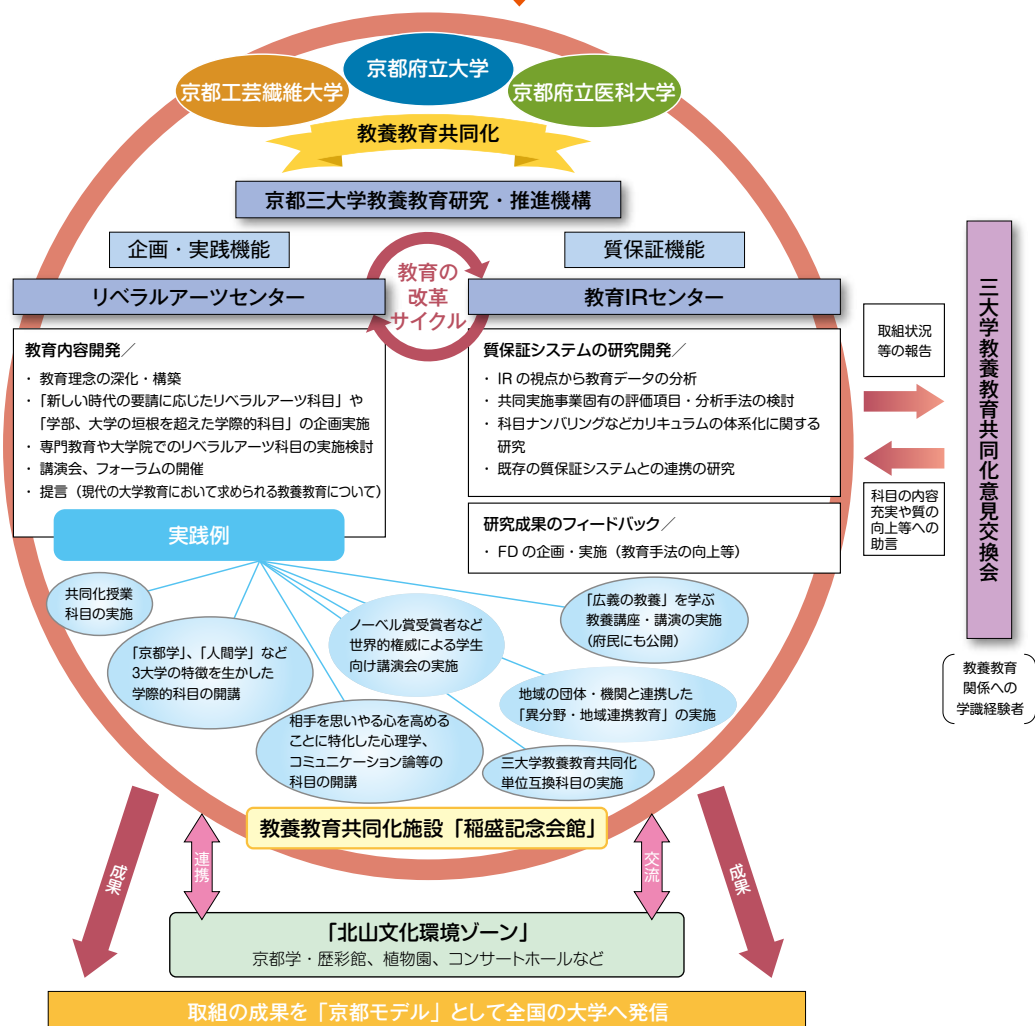
取組コンセプト

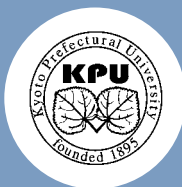
国公立三大学の教養教育カリキュラムを「共同化」し、それぞれの大学の特徴・強みを生かした質の高い、「新しい時代の要請に応じた教養教育」を実施する。

人材養成の目標

次の①～③を備えた人材を養成する。

- ①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心
- ②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」の存在しない問題についても、学際的な視点に立ち、多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力
- ③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力





京都府立大学

京都府立大学は、1895（明治28年）年に創立された京都府簡易農学校に源を発する創立120年以上の歴史を有する大学です。人文・社会・自然の諸分野にまたがる3学部・3研究科を備えた総合大学であり、教員・学生相互の密度の高いコミュニケーションをベースに、実験、実習、フィールドワークなど質の高い教育を実現しています。また、京都府の知の拠点として、京都地域未来創造センターが中心となり、高度かつ地域社会と密接に連携した研究、府内各地域の様々な課題に応える地域貢献活動や公開講座などを積極的に展開しています。

平成26年度からは、全国初となる京都府立医科大学、京都工芸繊維大学との教養教育共同化がスタートし、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」で三大学の学生が一堂に会して学ぶとともに、府民の皆様等との多様な交流が一層促進されています。

また、平成31年4月から、和食文化の意義を的確に理解し、国内外で和食文化を継承・発信していく人材を育成する、文学部和食文化学科を開設しました。



学長あいさつ

京都府立大学学長

築山 崇



学びを創り、社会の前面に!!

本年度、昨年度までの宿泊研修にかわって、「学生がつくる!! グッとくる授業」というテーマでワークショップが開催されました。最近話題の「主体的学び」に関わって、学生の視点からの授業づくりについて、活発な議論が交わされたと聞いています。これまでに、3大学の学生の有志による講演会、研究発表などが取り組まれてきましたが、今回はいよいよ、授業の在り方を巡って学生のみなさんが文字通り主体的に参画していく試みとして行われたわけで、これを端緒にこれからも、学生、教職員の協働によって新たな学びの地平が拓かれていくことに期待したいと思います。

人材育成という観点、いわば「外から」主体的、能動的な学びを求める流れが強くなっていますが、主体性、能動性を求めるのなら、そこでは、自主性・自発性が尊重されるべきです。社会の大きな変動が加速する中であって、将来に対する不安が強いと、少しでも確実な手がかりを求めがちになると思いますが、こういう時だからこそ、若い世代が、その感性を活かして、暮らしや産業、文化の創造の担い手として、社会の前面にその力強い姿を現してほしいと思います。

副学長あいさつ

京都府立大学副学長

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長

石田 昭人

機構運営委員長を務めて2年目の今年度は府立大学CAP制度の影響も落ち着き、科目の洗練も進み、順調な一年であったと思われる。EIRCやLACの活動についても各先生方の御尽力で定常的に進めるばかりでなく、さらなる洗練を行うことができた。今年度特筆すべきは、やはり、この三大学共同化教養教育を自ら向上させていこうという学生達の取り組みの始まりであろう。学生主体の活動として新たに学生交流会を企画したところ、予想以上に盛り上がり、大きな手応えを感じることができた。森迫工織大学長にも参加いただき、学生達と共に大いに楽しんでいただいた。高学年の学生達も忙しい中を大勢駆けつけてくれ、共同化教養教育を受けた先輩から後輩へ、その成果が確かに受け継がれていることを初めて実感することができ、共同化の立ち上げから携わってきた1人として大きな感動を覚えた。このイベントを機に、三大学の学生達による自主的な授業改善の動きが出て来ており、教員と学生が手を携えて共同化教養教育を高めていこうという気運が出て来たことは誠に喜ばしい。学生交流会や独自アンケートの準備会には私もちょくちょく顔を出して様子を見ていたのだが、所属大学も学年も異なり全く面識のなかった学生同士がごく短時間でうち分け、1つの目標に向かって思案と議論を重ね、具体化に至る過程を目の当たりにして、三大学の学生達のポテンシャルの高さに深く感じ入るとともに、今後に大きな期待を抱くことができた。三大学共同化の新たな時代の到来を感じている次第である。このような成果を上げて年度を終えることが出来たのは、ひとえに前田工織大副学長、奥田医大副学長のご協力とともに、しっかりと両センターの活動を支えてくれた各教員、そして、機構事務局はもちろん、三大学の事務担当者の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝したい。



京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学は、明治時代の工業化や伝統産業の近代化に対応するために1902年に設立された京都高等工藝学校及び1899年に設立された京都蚕業講習所に端を発し、1949年に新制京都工芸繊維大学として発足しました。以来、時代の進展とともに120年にわたり発展を遂げながら、伝統文化の源である古都の風土の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築き上げてきました。この栄光ある歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性に基づく技術の創造を目指して技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合を目指し、世界一線級の研究機関との協働を活発化させるグローバルな実践的プロジェクトを推進しています。



学長あいさつ

京都工芸繊維大学学長

森迫 清貴



理工系大学である本学は、TECH LEADER（テック・リーダー）と呼ばれる社会・産業イノベーションを牽引できる能力を有するひとを育てることを人材育成の目標としています。TECH LEADERは、本学の造語ですが、次の4つの工芸コンピテンシーを修得したひとを呼びます。一つ目は言うまでもなく「理工系専門力」です。二つ目は様々な課題を解決に導くことのできる「リーダーシップ」です。これは自己の役割を把握し、目標の実現に向けて推進していく能力です。三つ目は「外国語運用能力」です。日本社会も産業もグローバル化を意識せずに活動することはできません。四つ目が「文化的アイデンティティ」です。自己を認め、他者を認めて暮らしていくには、互いに拠って立つ文化を理解し、部分的にでも共有することが必要です。そのためには自己のアイデンティティとなる基盤形成が重要です。

三大学共同で提供される教養授業科目は、四つ目の「文化的アイデンティティ」の形成に関連していると思われるかもしれませんが、実は4つのコンピテンシーすべてに関係しています。三大学が共同で実施することで、授業科目の提供数は単独では考えられなかったほど充実しました。さらに、専門分野の異なる学生が集まり、互いに刺激を合うことは計り知れない相乗効果を生み始めています。学生たちが自ら三大学の学生交流会を発足させ、そこで大学授業科目の評価・改善提言のためのグループ討論を試行していることを目の当たりにした時は、心から嬉しく思いました。ここで学ぶ機会を得た学生が、われわれ教員の予想を超えて成長していくことを期待しています。

副学長あいさつ

京都工芸繊維大学理事・副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

前田 耕治

哲学者アリストテレスによれば、「教養は幸運なときには飾りであり、不運なときにはあつては命綱となる」（桑子敏雄訳）とあり、教養は逆境に追い込まれたときにも地位や財産のように失われることなく、最後に人間に身を助けてくれるものであることを教えてくれます。大学は最先端の研究を行いその基礎となる専門を学ぶ場であると考えがちです。しかし真に新しいものを発見した歴史は、学問の直線的な積み上げだけによらず、別の発想にヒントを得ることで飛躍的な発展が生じることを示唆しています。そのような幅広い発想を磨くのは若い年代に越したことはありません。学生の皆さんに将来にわたって「命綱」となる教養を身に付けてもらうために、できる限り広い選択肢を揃えたのが、京都府立大学、府立医科大学と協力して実施している三大学教養教育共同化です。

数年後に学生たちが飛び込んでいく現代社会は、専門的な知識・技術だけでなく、創造力、ダイバーシティ、コミュニケーション能力、グローバルな素養など多様な能力を求めており、まさに「教養教育」の重要性が高まっています。それぞれの大学の特色を生かした約80科目に及び講義や少人数ゼミナールだけでなく、昨年度は学生同士の自主的FD活動も展開され、多様な形態の中で異なる学風を感じながら学ぶ機会も生み出されてきました。専門が異なる学生が協同し合えるのはまさに教養の力であると感じます。現代社会の要請に応えるだけでなく、普遍的に意義のある教養教育となりつつあります。今後も本事業を発展させて、三大学が協力し合って持続可能な共同化の体制づくりに努めます。



京都府立医科大学

京都府立医科大学は、1872（明治5）年に開設された京都療病院での医学教育を始まりとする我が国で最も古い医科大学の一つで、2022年に大学創立150周年を迎えます。

本学では、歴史と実績によって培われた医学・医療技術や高い倫理観を身につけ、患者の立場に立って考える優れた医療人を養成しています。また、多様な学際的研究活動を推進し、次代をリードする指導的人材を育成しています。

本学は、京都府民に開かれた公立大学として、地域医療への理解と使命感を持った医療人を育成・確保するとともに、大学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」の下、最先端の研究を治療に活かす取組や府民等の健康増進に寄与するなど、大学の成果を府民に還元するよう努めています。



学長あいさつ

京都府立医科大学学長

竹中 洋



2020年度からの医学科では卒業時に臨床実習評価が加わり、看護学科ではモデル・コア・カリキュラムが導入されるなど教育改革が進みます。医学教育において「医療」の重みが増すこととなります。これからの医学生は、病気を診るだけでなく、患者さんを理解し、どのように手を差し伸べるべきか、自分が周りのスタッフや患者さんにどのように理解されているか意識することがこれまで以上に求められます。本学では、従来から基礎教育と専門教育との連携を重視して参りましたが、幅広い教養を身につけた人間性豊かな医療人又は幅広い研究を行う研究者となるため、多くの人達と共に学ぶことはとても大切なことと考えます。

京都工芸繊維大学、京都府立大学及び本学の三大学が、それぞれの強みと特徴を活かした「現代の教養」を提供しあう教養教育共同化は、本学の学生にとって、より幅広い教育の機会を得られるだけでなく、専攻分野や将来の志望の異なる個性との交流を通じて、多様な価値観を養う、非常に意義深い取り組みとなっています。

本学は、教育・研究・診療それぞれの分野で、「世界トップレベルの医学を地域へ」という理念実現に向けた取組を続けていますが、これからも地域医療へのより一層の貢献を進めてまいります。この三大学教養教育共同化の取組により、本学のこれからの時代を担う有為な人材が育ってくれることを、大いに期待しています。

副学長あいさつ

京都府立医科大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

奥田 司

三大学教養教育共同化事業は、文部科学省の支援を得て平成26年度に開始された教育プログラムに端を発するものですが、平成29年度からは京都工芸繊維大学、京都府立大学及び本学の独自共同予算による運営となって、少しずつ形を整えながら、全国に先駆ける大学間連携のモデル事業として、高い評価を受けつつ展開してきたものです。

一般に専門性の高い単科大学では、所属する学生は専門領域の殻の中に閉じこもりがちですが、本学は、この三大学教養教育共同化事業によって、学生は三大学それぞれの特長ある教養講義科目を幅広く選択受講できるだけでなく、リベラルアーツ・ゼミナール科目の受講等を通じ、専攻科目や学修目標の異なるさまざまな学生たちと交流することができるという大きなアドヴァンテージを得ることになりました。学生諸君には、こうした機会を最大限に活用して、積極的に交流することで豊かな人間性を築き、みずからの興味に合う幅広い教養を身につけ、大きく成長してもらいたいと思います。

一方で、本学は連続講義「医学概論」を平成29年度から提供し、非医学系の学生を対象に、本学が誇る専門講師陣によって医学の基礎／臨床の現状についてわかりやすく紹介しています。他ではあまり例を見ないユニークな講義となっていますので、工芸繊維大学、府立大学の学生の皆さんにはぜひ多数受講いただき、この機会に本学の医学マインドに触れていただきますよう御案内申し上げます。

(1) 2019 年度取組の到達点 (機構運営委員長 総括コメント)

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長
京都府立大学 副学長

石田 昭人

はじめに

本年度は、昨年度までの学生の科目選択幅の拡大に向けた科目の量的な確保から、科目内容の充実や学生間の交流促進などの質的な確保への転換点となった一年であった。三大学の学生による自主的な交流活動を行う組織が立ち上がり、学生が主体的に三大学の共同化教養教育の発展に寄与しようという活動の端緒が見え始めた。また、科目内容の充実に向けた外部評価の新たな方策としての意見交換会の開催や、外部からの寄付による講義の実施への検討が行われ実施の目処が立ちつつあるなど、三大学の共同化教養教育にとって新たな時代の到来を感じさせる有意義な一年であったといえよう。以下に本年度の取組とその成果を概説する。

1) 「持続可能な自主運営」のための体制構築

文科省事業の終了後3年目となり、本年度も限られた予算の中で最小限の労力と時間で最大限の成果を達成し、共同化教養教育の質を維持・向上できるよう、三大学が力を合わせて機構の運営と教育にあたった。私が運営委員長を拝命して2年目となるが、副学長会議や運営委員会を通じて三大学それぞれの財政や教学の現状を互いに理解し、意見を交換する中で、共同化教養教育をよりよいものにしていこう、調整の努力で利を最大にして害を最少にしようという雰囲気は常に三大学の関係教職員の間にあることが実感される。運営委員長として誠にありがたく、よくぞここまで来たものだと感じ入るとともに、これはひとえに関係教職員のこれまでの努力の賜物にほかならず、改めて深く感謝する次第である。

予算については昨年度と同様、予算案策定時に一つ一つの項目について必要性や事業効果などの徹底的な見直しを行うとともに、三大学の運営委員会による運営体制が一定確立されたことから、機構の特任教員を廃止するなど、事務局の体制についても見直しを行った。

各種行事においても、学生主体の行事である宿泊研修については、教育効果は非常に高いものの参加者が少なく多くの経費も要することから休止し、代替策として新たな学生交流企画を開催した。詳細はリベラルアーツセンターの報告などで後述するが、学生主体で開催し大きな成果が得られたことから、特段の大きな予算無しでも工夫次第で十分な活動が可能である実績として次年度に繋いでいきたいと考えている。

アンケートなどの他の定常的な活動に関しても継続するとともに、運営委員会や副学長会議についても、開催回数を極力減らして教員や事務職員の負担軽減を図ったところである。

また、外部の視点から三大学の共同化教養教育の科目内容等の充実への助言を求める外部有識者との意見交換会を新たに開催したところであり、今年度の予算・活動規模が今後の自主的な運営における1つの目安になると考えられる。

2) 教育内容の充実

教育内容の充実については、リベラルアーツセンターの報告で詳述されるが、概要を述べておきたい。カリキュラムに関しては昨年も述べたように、科目数という量的な水準は既に十分確保できていると認識しており、今年度においては、科目の維持と内容の洗練に注力の上、79科目を開講したところである。

平成29年度から開講している「京都の経済」

については、京都銀行様の全面的な協力で実施され、学生からの評価も非常に高い人気講義であるが、府内の企業や金融機関、経済関係団体、事業組合など幅広い分野の関係者をゲストスピーカーとして招き、様々な観点から府内の経済の現状や課題を学び、学生が地域に関心を持ち、自分が学ぶ専門分野と社会とつながりを意識する内容に見直しを図った。

来年度においては、科目内容については、提供大学や講師の事情により、いくつかの科目を入れ替える予定である、また、リベラルアーツゼミナールとして「現代正義論」、京都学科目として「京都の文化と文化財」、工繊大のご尽力により寄付講座として「SDGsをまなぶ」を新たに開講する予定であり、今後、多くの問題を俯瞰して課題解決に挑んでいかねばならない三大学の学生たちにはいずれもきわめて有用な講義となろう。

また、共同化教養教育の基本理念の1つにマスプロ教育の排除があり、各科目の定員は低めに設定しているが、夏期集中講義として開講する「生命科学講話」は例外的に定員を設けずに希望する学生を出来る限り受け入れてきた。府大と医大の教員が担当し、最新の研究トピックスに触れることが出来るため人気で、受講希望者が非常に多いが、一方で大人数の受講に伴う受講環境の悪化や成績評価の難しさなどの課題もあり、来年度は新たに定員を設定する予定であるが、引き続き講義の実施方法等について議論していく必要がある。

科目の開講時期については、従来から前期の履修者が多い傾向があったが、今年度は特に前期の履修者が多く、学生の履修希望状況も考慮して、来年度は一部の科目を後期から前期にシフトさせることにした。これまでも前期と後期の履修状況のバランスを図るため、新規科目はなるべく後期に開講し、後期の履修を促すように工夫していた

が、前期で定員の超過や定員一杯に近い科目が増加しており、前期の開講科目数のある程度の増加はやむを得ない状況である。

3) 各種行事

・学生の交流企画

学生主体の行事としては、三大学の学生有志により自主的に交流活動を行う学生グループ「京都三大学学生交流会」が11月に結成され、定期的に集まり議論を重ねる中で、同交流会の主催により、12月に「学生がつくる!! グッとくる授業」と銘打った学生交流企画が開催された。企画から広報、当日の司会進行まで全てを学生が自分たちで実施したもので、当日は三大学の学生や教職員が多数参加し、工繊大の森迫学長も飛び入りで来場され、学生たちの意気は大いに上がった。

ワークショップでは、学生たちがグループに分かれ、大学でどのような授業を面白いと感じたかなどを議論し、議論の成果をポスターセッション形式で発表・共有を行ったが、互いに初めて顔を合わせた学生たちがこれほどまでに一体となって取り組み、課題の洗い出しや提言をしてくれるとは思ってもみななかっただけに、大きな感動を覚えた。教員も有志で学生と同様のワークショップを体験し、まるで学生時代に帰ったような気分で議論に熱中したほか、最後のグループディスカッションには教員も参加し、学生と教員が授業について直接意見を交換する貴重な場となった。

事例発表では今年度のリベラルアーツゼミナールの受講者による授業での成果に関するプレゼンとともに、過去にリベラルアーツゼミナールを受講して専門課程に進んでいる先輩達からのコメントがあり、共同化教養教育の看板でもあるリベラルアーツゼミナールの大きな効果を改めて確認で

きた。今後、三大学の学生たちがこの学生交流会を継続・発展させ、共同化教養教育の発展の一端を担っていてくれることを切に願っている。

・外部有識者との意見交換会

文科省事業の期間中には外部有識者による評価を運営協議会という形で実施していたが、共同化開始後5年を経過し、運営体制や提供科目数が一定確保されたことから、今後の科目の内容充実や質の向上等に向けて、教養教育に造詣の深い有識者から助言等を求めるため、意見交換会を実施することにした。京都大学名誉教授で共同化教養教育の構築にご尽力くださり、現在も共同化科目の担当教員である林哲介氏に座長をお願いし、外部有識者として、京都大学の高橋由典氏、京都産業大学の川島啓二氏、大阪市立大学の飯吉弘子氏に出席をお願いした。高橋氏は京都大学で教養教育の管理運営に長年携わってこられ、現在も教養教育の授業を担当されているほか、川島氏は国立教育政策研究所で国の高等教育改革に携われたご経験があり、初年度教育に造詣が深く、飯吉氏はICU(国際基督教大学)のご出身で経済界からの大学教育に対する要請も研究されている。また、それぞれ国立、私立、公立大学と異なる設置者の大学において教養教育の改革に取り組まれている。

9月3日に開催された意見交換会では、三大学からも多数の教職員が参加し、外部有識者の3氏から、他大学の教養教育の事例や国の高等教育改革、経済界からの大学教育に対する要請の動向などの紹介があった後、教養教育における学生の主体性の尊重とカリキュラムデザインの必要性、担当教員の確保等の様々な観点から、活発な議論が行われた。なお、意見交換会の運営方法については、時間を大幅に超過するなどの反省すべき点があり、今後改善していきたいと考えている。

林座長、高橋氏、川島氏、飯吉氏におかれては、

三大学教養教育共同化の今後のあり方への示唆に満ちた貴重な意見をくださり改めて感謝を申し上げます。

・科目担当者会議

教員の行事としては、共同化科目担当者会議を例年通り開催し、大人数の授業における学生交流やアクティブラーニングの実践、受講者が大規模になる授業の妥当性や改善点、評価のあり方などに関して活発な意見交換が行われた。

4) 次年度に向けた課題

上述のように、科目数という量的な水準は確保され、科目選択幅の拡大という当初の目的は達成したと言える状況にあり、今後は科目数の維持と内容の洗練に注力し、質的な充実を図る時期に来ている。科目数の維持には特段の苦労はないと思われるが、実は大きなエネルギーを要するのである。三大学は教員数が少ないため、科目担当教員が定年退職などで担当できない事態が生じた場合には、後継者となる教員の確保に非常に大きな苦勞を伴う。これまでは、共同化教養教育の発足当初から関わり、その理念に賛同する教員の協力と熱意により科目を維持してきたが、こうした教員が私を含めて次々と引退の時期を迎えている。

喫緊の課題は後継者となる教員の養成であり、今後は三大学の若手の教員を中心にこの理念を継承し、洗練・発展させていってもらわねばならない。共同化科目担当者会議という名称を変更し、共同化科目を担当していない三大学の教員が参加しやすいような工夫や、三大学が独自に行っているFD会議と合同で開催するといった方策で、共同化教養教育の理念を広め、三大学の教員が自主的に科目担当教員として参画していただけるような道筋を作っていくことが不可欠だと考えている。

(2) 2019年度三大学教養教育共同化の取組

共同化教養教育等の概要

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学による共同化授業が平成26年4月に始められ、今年度で6年目を迎える。文部科学省の大学間連携共同教育推進事業補助金を受けての運営を経て、事業費を三大学で相互に負担しながらの独自事業としての取組も今年度で3年目となった。

三大学での共同化教養教育は、個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目に限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目とすることによって、学生の科目選択の幅を大きく増やし、学修意欲を高めようとするものである。

文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望が異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を持つ学生と一緒に学び交流することを通じ、豊かな人間性の形成に資することもねらいとしている。平成26年夏に、京都府立大学下鴨キャンパス内に教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が整備され、同年後期授業からは同施設が教養教育の拠点となり、学生間交流に大きく寄与してきている。

今年度も三大学で協議の上、共通の学年暦を定め、前期は4月8日(月)から8月5日(月)(試験日を含む)、後期は9月30日(月)から2月3日(月)(試験日を含む)とし、原則として毎週月曜日に開講した。共同化開始当初から開講していた3～5コースに加え、一昨年度から開始した月曜日午前の共同化授業も引き続き6科目開講した。

このほか、例年取り組んでいる集中講義を、夏期休業期間中に6科目開講した。

また、三大学教養教育共同化が展開される以前から三大学間で実施されていた単位互換制度については、三大学合わせて30科目とした。

2019年度共同化カリキュラムの概要

2019年度は、共同化科目として79科目を開講した。後期を中心に、科目定員に対する履修者

数の割合である履修率の向上を図るため、一部の科目を休廃止し、昨年度に比べると3科目の減、共同化開始年度である平成26年度とでは11科目増加したこととなる。科目群別では、「人間と文化」29科目、「人間と社会」25科目、「人間と自然」25科目と、諸分野をバランスよく提供することに努めた。

79科目を提供大学別にみると、京都工芸繊維大学が31科目、京都府立大学が23科目、京都府立医科大学が12科目、機構が13科目となる。

この結果、共同化開始前に比べ学生の科目選択幅は、各大学により異なるものの、2.3倍～5.1倍に大きく拡大した。

共同化事業開始当初から取り組んでいる『京都学』科目は、15科目開講した。京都工芸繊維大学が2科目、京都府立大学が8科目、京都府立医科大学が1科目、機構が4科目担当し、各大学の専門性を生かした多様な『京都学』科目を提供した。

また、少人数で学生同士が交流し、共通のテーマで対話し議論する力を育むことをねらいとした「リベラルアーツ・ゼミナール」は、11科目開講した。考え方や学び方の基礎力を培う授業やグローバルな視野を広げる集中講義、アクティブラーニングを取り入れたゼミナールなど、多彩な内容を提供している。

学び続ける教養教育の一環で、平成27年度から取り組んでいる上回生を対象とした高度教養教育科目については8科目、語学・異文化理解科目についても7科目を、昨年度と同じく開講した。

履修登録の状況

2019年度前期の共同化科目は39科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が15科目、京都府立大学が13科目、京都府立医科大学が5科目、機構が6科目である。また、39科目中、6科目は夏期集中講義科目として開講した。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者(2019年度前期)」のとおりである。履修登録者総数が5,034人で、大学別では、京都工芸繊維大学が2,776人、京都府立大学が1,630人、京都府立医科大学が628人である。三大学学生の交流状況を示す自

大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は2,780人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）4,763人に占める割合は58.4%であった。

次に、後期の共同化科目は40科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が16科目、京都府立大学が10科目、京都府立医科大学が7科目、機構から7科目である。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2019年度後期）」のとおりである。履修登録者総数が3,107人で、大学別では、京都工芸繊維大学が1,419人、京都府立大学が1,489人、京都府立医科大学が199人である。三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は1,502人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）3,008人に占める割合は49.9%であった。

これらの結果、前期と後期を合わせた通年での履修者総数は8,141人で、前年度に比べ127人増加（+1.6%）した。

大学別では、京都工芸繊維大学が対前年度345人減少（-7.6%）。京都府立大学が393人増加（+14.4%）。京都府立医科大学が79人増加（+10.6%）という結果であった。

また、自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は4,282人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）7,771人に占める割合として通年で三大学学生の交流状況を示す交流率は55.1%にのぼり、昨年度に続き50パーセントを超えた。

なお、今年度は科目定員に対する履修者数の割合である履修率は82.1%と昨年度より1.9%増加したが、前期の履修登録者が増加し、前期の履修率が92.2%と高い状況であるため、来年度において科目の開講時期の見直しを進める予定である。

履修定員調整

教養教育共同化施設の整備に当たっては、マスプロ教育を避けるために教室規模を最大200人程度とされたこともあり、科目ごとにあらかじめ履修定員を設定の上、授業を実施している。その

ため、各科目において大学ごとに定員の配分を行い、定員を超える履修希望があった場合は抽選となるが、配分に当たっては、まずは、科目定員の半数を科目提供大学が、残りの半数をその他2校で1年生の学年定員数に応じ配分することを原則としている。

その上で、学生の履修希望を受け付け、科目ごとに各大学の履修希望数を集約し、定員に余剰が生じた大学があった場合には、その余剰分を他の大学に再配分するなどの工夫を行うことにより、可能な限り学生の履修希望にかなった定員配分となるように調整を行っている。

学生への受講ガイダンス

共同化授業の取組について、受講する学生にわかりやすく周知を図るため、三大学共通のガイダンス冊子「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」を作成した。

冊子には、この1冊があればスムーズに共同化授業が受講できるよう、共同化の理念・目的をはじめ、共同化科目の履修方法、共同化科目一覧、前・後期ごとの各科目の履修定員、科目概要、開講時間割などを掲載した。科目概要には、科目の説明だけでなく、当該科目担当教員の授業に対する姿勢や思いを学生へのメッセージとして、授業目的区分とともに掲載した。また昨年度から、共同化科目の受講生向けのアンケートから得た意見などを元に作成した、共同化に関するFAQを掲載している。

学生への受講ガイダンスは、各大学で実施される新入生履修ガイダンス時に、共同化科目に関して説明する時間枠をそれぞれ設け、関連冊子の配布と説明を行った。

2019年度 共同化科目一覧

科目群	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分		
				A	B	C
人間と歴史	哲 学	工・伊藤 徹	後	○	○	○
	比較宗教学	工・長岡 徹郎	前	○	○	○
	宗教と文化	医・田中 純子	後	○	○	○
	日本史	工・鬼頭 尚義	後	○	○	○
	東西文化交流史	工・西條 茂雄	後	○	○	○
	アジアの歴史と文化	府・岡本 隆司	前	○	○	○
	ヨーロッパの歴史と文化	府・藤原 勉	後	○	○	○
	ラテン語	医・松本 加奈子	後	○	○	○
	西洋文化論	工・山下 太郎	後	○	○	○
	日本文学Ⅰ	医・早川 久美子	前	○	○	○
文化・芸術	日本文学Ⅱ	医・早川 久美子	前	○	○	○
	日本近現代文学	工・佐藤 貴之	後	○	○	○
	西洋文学論	工・山下 大吾	前	○	○	○
	文芸創作論	医・藤田 佳信	後	○	○	○
	美と芸術	工・三木 順子	前	○	○	○
	日本近代精神史	工・伊藤 徹	前	○	○	○
	フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工・吉川 順子	前(午前)	○	○	○
	映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府・出口 菜摘	後(午前)	○	○	○
	映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府・青地 柏水	前(午前)	○	○	○
	京都の歴史Ⅰ	府・小森 悠治	後	○	○	○
京都学	京都の歴史Ⅱ	府・小森 悠治	後	○	○	○
	京都の文学Ⅰ	府・安達 敬子	前	○	○	○
	京都の文学Ⅱ	府・本井 敦子	後	○	○	○
	京都の意匠	工・並木 誠士	後	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・田村 うらら	集中・夏	○	○	○
	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・桑子 敏雄	集中・夏	○	○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林 哲介	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
リベラルアーツ・ゼミナール	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・桑子 敏雄	集中・夏	○	○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林 哲介	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・田村 うらら	集中・夏	○	○	○
	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・桑子 敏雄	集中・夏	○	○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林 哲介	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・田村 うらら	集中・夏	○	○	○
	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・桑子 敏雄	集中・夏	○	○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林 哲介	後	○	○	○
社会科学の基礎	人文地理学Ⅰ	医・古閑 大樹	前	○	○	○
	人文地理学Ⅱ	医・古閑 大樹	後	○	○	○
	社会学Ⅰ	府・井口 暁	後	○	○	○
	社会学Ⅱ	府・山本 めゆ	後	○	○	○
	政治学	工・竹本 知行	後	○	○	○
	国際政治	府・佐田 博	前	○	○	○
	経済学入門	工・人見 光太郎	後	○	○	○
	法学	工・北村 幸也	後	○	○	○
	生活と経済	府・小沢 修司	前	○	○	○
	心理学	工・大谷 芳夫	後	○	○	○
人間と社会	発達心理学	医・小川 恭子	集中・夏	○	○	○
	現代社会と心	府・石田 正浩	後	○	○	○
	現代社会とジェンダー	府・中根 誠晴	後	○	○	○
	現代教育論	工・堀屋 葉子	前	○	○	○
	食環境をめぐる国際社会と日本α	府・宗田 好史	後	○	○	○
	食環境をめぐる国際社会と日本β	府・宗田 好史	後	○	○	○
	環境と法	工・須田 守	後	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田 由希代	前	○	○	○
	現代京都論	府・大島 祥子	前	○	○	○
京都学	医史学	医・八木 聖弥	後	○	○	○
	京都の経済	機・小沢 修司	後	○	○	○
	現代社会に学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	前	○	○	○
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	後	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田 由希代	前	○	○	○
リベラルアーツ・ゼミナール	現代京都論	府・大島 祥子	前	○	○	○
	医史学	医・八木 聖弥	後	○	○	○
	京都の経済	機・小沢 修司	後	○	○	○
	京都の自然と森林	府・高松 光 ほか	前	○	○	○
	京都の農林業	府・寺林 敏 ほか	後	○	○	○
	京都の防災と府民	機・石田 昭人	後	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
人間と自然(25科目)	人と自然と数学α	工・峯 拓矢	前	○	○	○
	人と自然と数学β	工・朝田 南	後	○	○	○
	人と自然と物理学	工・萩原 亮 ほか	後	○	○	○
	生物学的人間学	医・小野 悠彦 ほか	前	○	○	○
	科学史	工・大西 琢朗	後	○	○	○
	環境問題と持続可能な社会	工・山田 悦	前	○	○	○
	食と健康の科学	府・東あかね ほか	前	○	○	○
	キャンパスヘルス概論	工・荒井 宏司	前	○	○	○
	新関生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))	医・八木田 和弘	集中・夏	○	○	○
	エネルギー科学	工・林 康明	前	○	○	○
京都学	現代科学と倫理	府・岩崎 兼人	前	○	○	○
	医学概論(※2回生以上の工・大・府大生が対象)	医・奥田 司 ほか	後(午前)	○	○	○
	京都の自然と森林	府・高松 光 ほか	前	○	○	○
	京都の農林業	府・寺林 敏 ほか	後	○	○	○
	京都の防災と府民	機・石田 昭人	後	○	○	○
	製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・石田 昭人	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
合計 79 科目						
(再掲)	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林 哲介	後	○	○	○
	現代社会に学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	前	○	○	○
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	後	○	○	○
	現代科学と倫理	府・岩崎 兼人	前	○	○	○
	医学概論(※2回生以上の工・大・府大生が対象)	医・奥田 司 ほか	後(午前)	○	○	○
	京都の自然と森林	府・高松 光 ほか	前	○	○	○
	京都の農林業	府・寺林 敏 ほか	後	○	○	○
	京都の防災と府民	機・石田 昭人	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
リベラルアーツ・ゼミナール(11科目)	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
	意外と知らぬ植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・松谷 茂 ほか	後	○	○	○
集中開講						
(再掲)	京都の歴史Ⅰ	府・小森 悠治	後	○	○	○
	京都の歴史Ⅱ	府・小森 悠治	後	○	○	○
	京都の文学Ⅰ	府・安達 敬子	前	○	○	○
	京都の文学Ⅱ	府・本井 敦子	後	○	○	○
	京の意匠	工・並木 誠士	後	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田 由希代	前	○	○	○
	現代京都論	府・大島 祥子	前	○	○	○
京都学(15科目)	医史学	医・八木 聖弥	後	○	○	○
	京都の経済	機・小沢 修司	後	○	○	○
	現代社会に学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	前	○	○	○
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・児玉 英明	後	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田 由希代	前	○	○	○
(再掲)	現代京都論	府・大島 祥子	前	○	○	○
	医史学	医・八木 聖弥	後	○	○	○
	京都の経済	機・小沢 修司	後	○	○	○
	京都の自然と森林	府・高松 光 ほか	前	○	○	○
	京都の農林業	府・寺林 敏 ほか	後	○	○	○
	京都の防災と府民	機・石田 昭人	後	○	○	○
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機・脇田 哲志	集中・夏	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	近代京都と三大学	機・須田 俊 ほか	前	○	○	○
2回生以上向け開講(8科目)	フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工・吉川 順子	前(午前)	○	○	○
	映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府・出口 菜摘	後(午前)	○	○	○
	映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府・青地 柏水	前(午前)	○	○	○
	英語で京都(※3回生以上)	府・山口 美知代	後	○	○	○
	資料で読む京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	医・藤本 文 ほか	後(午前)	○	○	○
	現代科学と倫理	府・岩崎 兼人	前	○	○	○
	医学概論(※2回生以上の工・大・府大生が対象)	医・奥田 司 ほか	後(午前)	○	○	○
	京都の自然と森林	府・高松 光 ほか	前	○	○	○
	京都の農林業	府・寺林 敏 ほか	後	○	○	○
	京都の防災と府民	機・石田 昭人	後	○	○	○

担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。)

工：京都工芸繊維大学、府：京都府立大学、医：京都府立医科大学、機：京都三大学教養教育研究・推進機構

授業目的区分(○は該当するもの、◎は特に強調するもの)

A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B：世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を追求する議論に習熟する。

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2019年度前期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	工織大	月2	フランス語圏の文化とジャポニスム（※2回生以上）	30	5	10	0	15	66.7%	50.0%
2	府大	月2	映画で学ぶドイツ語と文化（※2回生以上）	30	6	5	0	11	54.5%	36.7%
3	工織大	月3	日本近代精神史	99	47	16	28	91	48.4%	91.9%
4	工織大	月3	法学	99	29	25	4	58	50.0%	58.6%
5	工織大	月3	現代教育論	174	123	20	30	173	28.9%	99.4%
6	工織大	月3	生物学概論Ⅰ	174	47	112	11	170	72.4%	97.7%
7	工織大	月3	環境問題と持続可能な社会	99	42	44	9	95	55.8%	96.0%
8	府大	月3	京都の歴史Ⅰ	196	57	91	34	182	50.0%	92.9%
9	府大	月3	社会学Ⅰ	120	39	68	11	118	42.4%	98.3%
10	府大	月3	国際政治	99	50	26	9	85	69.4%	85.9%
11	府大	月3	現代京都論	299	134	126	33	293	57.0%	98.0%
12	府大	月3	物理学Ⅰ	120	79	22	8	109	79.8%	90.8%
13	機構	月3	現代社会に学ぶ問う力・書く力a（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	10	10	10	30	100.0%	100.0%
14	工織大	月4	日本史	174	82	81	10	173	52.6%	99.4%
15	工織大	月4	美と芸術	174	102	41	30	173	41.0%	99.4%
16	工織大	月4	化学概論Ⅰ	99	73	14	0	87	16.1%	87.9%
17	工織大	月4	人と自然と数学α	120	104	4	8	116	10.3%	96.7%
18	工織大	月4	キャンパスヘルス概論	196	35	127	34	196	82.1%	100.0%
19	府大	月4	京都の文学Ⅰ	99	34	44	4	82	46.3%	82.8%
20	府大	月4	食と健康の科学	100	46	40	14	100	60.0%	100.0%
21	医大	月4	日本文学Ⅰ	99	39	20	6	65	90.8%	65.7%
22	医大	月4	人文地理学Ⅰ	204	77	61	64	202	68.3%	99.0%
23	医大	月4	生物学的人間学	120	42	19	16	77	79.2%	64.2%
24	機構	月4	近代京都と三大学	99	54	38	3	95	100.0%	96.0%
25	機構	月4	レーザで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	17	6	6	29	100.0%	96.7%
26	工織大	月5	比較宗教学	196	102	61	32	195	47.7%	99.5%
27	工織大	月5	西洋文学論	99	33	11	2	46	28.3%	46.5%
28	工織大	月5	心理学	174	96	39	30	165	41.8%	94.8%
29	工織大	月5	エネルギー科学	120	108	4	3	115	6.1%	95.8%
30	府大	月5	アジアの歴史と文化	120	69	35	6	110	68.2%	91.7%
31	府大	月5	現代社会とジェンダー	174	72	85	14	171	50.3%	98.3%
32	府大	月5	現代科学と倫理	99	28	2	1	31	93.5%	31.3%
33	府大	月5	京都の自然と森林	204	96	91	15	202	55.0%	99.0%
34	機構	月5	現代社会に学ぶ問う力・書く力b（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	12	8	10	30	100.0%	100.0%
35	府大	集中	生命科学講話	867	656	168	38	862	80.5%	99.4%
36	医大	集中	発達心理学	174	76	28	65	169	61.5%	97.1%
37	医大	集中	時間生物学特論（※3回生以上（修士課程大学院生を含む））	30	25	0	1	26	96.2%	86.7%
38	機構	集中	現代イスラム世界の文化と社会（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	10	9	9	28	100.0%	93.3%
39	機構	集中	感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	10	9	10	29	100.0%	96.7%
40	機構	集中	世界はいま	30	10	10	10	30	100.0%	100.0%
			合 計	5,460	2,776	1,630	628	5,034	58.4%	92.2%

（注）交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。
履修率：定員に対する履修者数の割合

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2019年度後期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	医大	月1	医学概論（※2回生以上の工織大・府大生）	99	24	23	0	47	100.0%	47.5%
2	府大	月2	映画で学ぶ英語と文化（※3回生以上）	30	4	11	0	15	26.7%	50.0%
3	機構	月2	資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）	20	2	8	0	10	100.0%	50.0%
4	機構	月2	経営哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）	30	10	7	0	17	100.0%	56.7%
5	工織大	月3	哲学	99	56	26	3	85	34.1%	85.9%
6	工織大	月3	東西文化交流史	196	97	62	36	195	50.3%	99.5%
7	工織大	月3	京の意匠	174	27	13	1	41	34.1%	23.6%
8	工織大	月3	政治学	99	7	11	2	20	65.0%	20.2%
9	工織大	月3	生物学概論Ⅱ	174	18	96	0	114	84.2%	65.5%
10	工織大	月3	科学史	99	34	6	0	40	15.0%	40.4%
11	府大	月3	京都の歴史Ⅱ	299	34	73	5	112	34.8%	37.5%
12	府大	月3	社会学Ⅱ	120	45	69	3	117	41.0%	97.5%
13	医大	月3	宗教と文化	99	13	30	10	53	81.1%	53.5%
14	医大	月3	文芸創作論	120	9	28	7	44	84.1%	36.7%
15	医大	月3	医史学	99	22	7	9	38	76.3%	38.4%
16	機構	月3	京都の経済	120	70	41	6	117	100.0%	97.5%
17	機構	月3	社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	12	12	0	24	100.0%	80.0%
18	機構	月3	製品の機能から科学を学ぶ（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	12	14	3	29	100.0%	96.7%
19	機構	月3	意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	13	12	4	29	100.0%	96.7%
20	工織大	月4	科学と思想（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	15	4	6	25	40.0%	83.3%
21	工織大	月4	環境と法	99	24	34	0	58	58.6%	58.6%
22	工織大	月4	京の産業技術史	99	32	34	0	66	51.5%	66.7%
23	工織大	月4	人と自然と数学β	99	23	2	0	25	8.0%	25.3%
24	工織大	月4	人と自然と物理学	99	16	4	0	20	20.0%	20.2%
25	府大	月4	ヨーロッパの歴史と文化	174	65	87	22	174	50.0%	100.0%
26	府大	月4	京都の文学Ⅱ	99	39	43	3	85	49.4%	85.9%
27	府大	月4	現代社会と心	196	85	110	1	196	43.9%	100.0%
28	医大	月4	ラテン語	120	53	34	25	112	77.7%	93.3%
29	医大	月4	日本文学Ⅱ	99	15	22	4	41	90.2%	41.4%
30	医大	月4	人文地理学Ⅱ	174	88	57	26	171	84.8%	98.3%
31	機構	月4	京都の防災と府民	120	37	67	3	107	100.0%	89.2%
32	工織大	月5	西洋文化論	99	33	40	12	85	61.2%	85.9%
33	工織大	月5	日本近現代文学	174	75	93	2	170	55.9%	97.7%
34	工織大	月5	経済学入門	120	47	27	0	74	36.5%	61.7%
35	工織大	月5	化学概論Ⅱ	99	11	8	1	20	45.0%	20.2%
36	工織大	月5	地球の科学	174	90	81	3	174	48.3%	100.0%
37	府大	月5	英語で京都（※3回生以上）	30	10	1	0	11	90.9%	36.7%
38	府大	月5	生活と経済	99	39	52	0	91	42.9%	91.9%
39	府大	月5	食環境をめぐる国際社会と日本α	90	26	37	1	64	42.2%	71.1%
40	府大	月5	京都の農林業	196	87	103	1	191	46.1%	97.4%
			合 計	4,456	1,419	1,489	199	3,107	49.9%	69.7%

(注) 交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。
履修率：定員に対する履修者数の割合

(1) 2019年度のリベラルアーツセンターの活動を総括して

京都三大学教養教育研究・推進機構 リベラルアーツセンター長／京都府立大学 教授
岡本 隆司

本年度は文科省事業後の独自運営になってから3年目にあたり、原則として、第二年度の昨年度に達成した成果を継続維持してゆく方針で、適宜改編を加えながら、学生交流企画の開催など、以下に列挙するような活動を行った。

- 1) 2019年度のカリキュラム構成（科目）の考え方
- 2) 学生間の交流機会の充実

1) 元年度のカリキュラム構成（科目）の考え方

2019年度は合計79の共同化科目を用意して、十分な種類と数の授業を提供できたと考えている。

全体のカリキュラムも、昨年度までの成果に準拠して、人文・社会・自然諸分野の学術を俯瞰し、その基礎を学習するとともに、世界の多様性を感じ、日常社会に生じる問題の真理を探究する議論ができるような学生を育成する考え方にもとづいて構成しており、当面は所期の目標にかなう現状である。

科目数については、これまで毎年度増加を図ってきたが、概ね必要な規模を確保したものと考えており、今後は学生のニーズ・社会の要請に応じて、科目の内容・構成に改編・洗練を加えていくことが必要である。他方、担当人員・配当予算などの制約によって、休止・廃止を考慮せざるをえない科目もある。以上については、科目数の維持や担当のあり方など、リベラルアーツセンターでメール会議を経て、従来の原則などを尊重しつつ、柔軟に対応してゆく方針を確認した。

たとえば今年度は、後期を中心に、科目定員に対する履修者数の割合である履修率の向上を図る

ため、一部の科目の休廃止を行った。また、平成29年度から開講中の「京都の経済」について、府内の企業や金融機関、経済関係団体、各地域の特色ある産業の事業組合等からゲストスピーカーを招き、府内の経済・産業の現状や課題について、様々な視点から講義を受ける内容に見直しを図ったところである。

来年度に向けては、今年度の前期の履修登録者が増加し、前期の履修率が92.2%と高い状況であることから、学生の履修登録状況を踏まえて、科目の開講時期の見直しを図る予定である。

また、科目内容の充実については、リベラルアーツ・ゼミナールや京都学科目の新設のほか、工繊大からのご提案で外部からの寄付による科目開設の検討などを進め、来年度にリベラルアーツ・ゼミナールの「現代正義論」、京都学科目の「京都の文化と文化財」、寄付講座の「SDGsをまなぶ」を新たに開講する予定である。その他に学習環境の改善のため、夏期集中講義である「生命科学講話」について、新たに定員を設定するなどの見直しを進める予定であり、今後も全体的なバランスに考慮しつつ、カリキュラム構成や科目内容等を不断に検討していかねばならない。

2) 学生間の交流機会の充実

授業以外での三大学の学生間の交流については、これまでは三大学の学生によるシンポジウムや講演会の開催、宿泊研修等の実施などを行ってきたところであるが、単発での企画で継続性がなく、宿泊研修も参加者が少ない状況であった。

このため、今年度において、三大学の学生が気軽に参加でき、継続性のある新たな学生交流企画の開催に向けて検討を進めてきたものであり、詳

細な内容は後述に譲ることとし、ここでは交流企画の実現に至るまでの経過を述べておきたい。

・これまでの経緯

昨年度まで実施していた宿泊研修は、三大学の学生が府内各地域で地域の関係者などと交流し、地域の実情・課題に直接触れるとともに、自らその解決を考える企画であり、平成28年度は綾部市、平成29年度は和束町、平成30年度は京丹後市で実施し、対人交流・情報収集・課題発見・意見発表などの技量を高めていった。

このように、宿泊研修は大きな成果を上げてきたものの、夏期休業中の開催で学生の経費的な負担も必要なため、応募学生が必ずしも多くないことや、準備に大きな時間・労力のコストを伴うことなどから、継続に困難を感じざるをえなかった。他方で学生間の交流事業は、学生の側からのニーズも高く、教養教育の目的・効果の点からもやはり欠かすことはできないところである。

そこでリベラルアーツセンターでは、宿泊研修に代わり、より多くの学生に参加してもらえる、継続可能な交流企画の立ち上げを検討してきた。数回にわたるメール会議、および事務方との打ち合わせを経て、リベラルアーツ・ゼミナールなどの授業科目の成果発表会とグループ討論会とを組み合わせて、学生自身の成果と課題をフィードバックし、共有できるような方向で、交流企画の準備を進めることとなったものである。

・交流企画の実現に向けたあらまし

初めての試みであるので、どれだけ学生たちが積極的に参加し、取り組んでくれるかは全く未知数であったため、リベラルアーツ・ゼミナールの受講生を中心に、参加を徐々に呼びかけていくことから取組を進めた。

ところが、企画に参加を希望する学生との打ち

合わせを重ねるうちに、幸いに学生の側から、三大学の学生の交流を積極的に実施したいとの強い希望があり、また同時に今回の交流企画の開催も含め、三大学の学生交流を進めるための自主的な組織を作って活動したいとの申し出があった。

当初は、翌年度から学生による自主的な開催を想定していたが、企画の素志からすれば、理想的な展開ではあったため、今回の交流企画も学生主体で内容の具体化を図ることになった。

なお、企画を主催する学生のグループは大学に入ってから一年にも満たない学生で、初めての試みであることには変わらないことから、学生の主体性を尊重しつつ、三大学の教員や事務方からの企画の方向付けと準備への支援が不可欠であった。

交流企画の内容・プログラムを作っていくための打ち合わせを数回重ねる中では、学生グループに対し、交流事業の経験のある上回生に助言と協力を依頼するとともに、単なる茶話会・懇親会で終わらないような工夫や、一部の仲間内の自己満足にとどめないために他の学生・教員にも積極的な参加の呼びかけをしていくことを促した。

その後、11月に学生による自主的な交流活動を行うグループ「京都三大学学生交流会」が結成され、同交流会の主催により、12月に三大学交流企画第1弾「学生がつくる!! グッとくる授業」を開催するに至ったものである。

以上がリベラルアーツセンターの関わった交流企画の実現に向けたあらましで、交流企画の詳細な内容については後述に譲るが、今後も「京都三大学学生交流会」の取組を学生の自主性を尊重しつつ、必要に応じて支援していく予定である。

(2) 教育 IR センターからの総合報告 - 2019 年度 (令和元年度) -

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター長／京都工芸繊維大学 教授

萩原 亮

はじめに

当教育 IR センターの任務 3 年目の総合報告をさせていただきます。本年度は、府立大学の織田昌幸教授ならびに新たに運営委員に就かれた京都府立医科大学の長崎生光教授とともに、センター運営を務めさせてもらった。運営の流れなどに慣れてきた今の段階で、ようやく共同化科目の全体構成や受講者動向の意味するところが客観的によく見えてきたと実感する。結果的なことを先ず述べると、共同化され広範・多彩になった教養科目の姿は、今や学生に十分に浸透しており、今後、自然な形で継続していく流れに乗っていることが確信できる。ただし、本共同化の形がうまく機能しているとしても、教養科目そのものが、高等教育のベースとして根付き、その教育効果を十分に発揮しているかどうかについては、反省の姿勢も含めつつ今後も思慮を重ねていく必要があるだろう。ともあれ、できるところを一步一步進めることが、あらゆる前進の源であるから、当センターの活動も、まずは例年に倣う形で堅実に進めさせてもらった。本報告も、その路線に沿い、毎年続けている履修者数の年次推移の情報を整理した結果から示すことにする。

1. 履修登録者数の歴年推移

共同化授業各科目の履修登録者数は、毎年、報告書上で公表されており、当センターではその情報を IR 活動の一環として追跡している。先ず、共同化開始以来の、大学別の履修登録者のべ総数の推移をグラフにして図 1 に示す。上下の (a)、(b) は、前・後期の別である。昨 2018 年には、府立大学で履修単位上限 (CAP) 制が導入されたことが影響して、府立大の登録学生数が約 2 割急減 (相当分だけ工繊大の履修者が増加) するという、やや異常な変化があり、その後の推移を注視していたが、本年度には一時的な異常からはほぼ

回復して、トレンドの関数ラインに戻ったと見ることができる。ただし、履修者数が前期に集まる傾向も強固であり、このことと CAP 制度の条件の下で、大学別登録者数が、前後期でそれぞれ特徴的な人数比の値に落ち着いているものと理解される。現在、開講科目数を前期に寄せる調整が少しずつ進んでいるので、今後は、そのことが大学別人数バランスに及ぼす効果に注意しながらデータを追うことになるだろう。

個別科目ごとの履修登録者については、昨年の報告と同様の形で歴年追跡したグラフにまとめ、図 2 と 3 に掲載する。人数を対数値にしているので、規模がまちまちな各科目の受講者数の動きを年度間の比として観ることができる。ただし、各ラインと科目名との対応については、直近 2 年度以内に新規開設されたものに限って示している (担当科目と照合される場合には、2017 年度報告に掲載した図を参考にされるか、IR センター宛お問い合わせをいただきたい)。

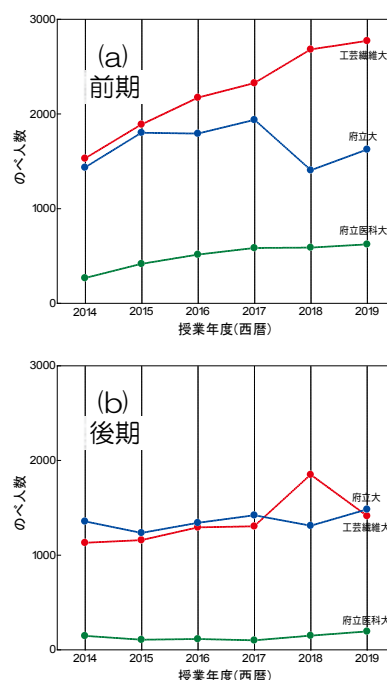


図 1. 大学別履修者総数の歴年変化
(a):前期, (b):後期

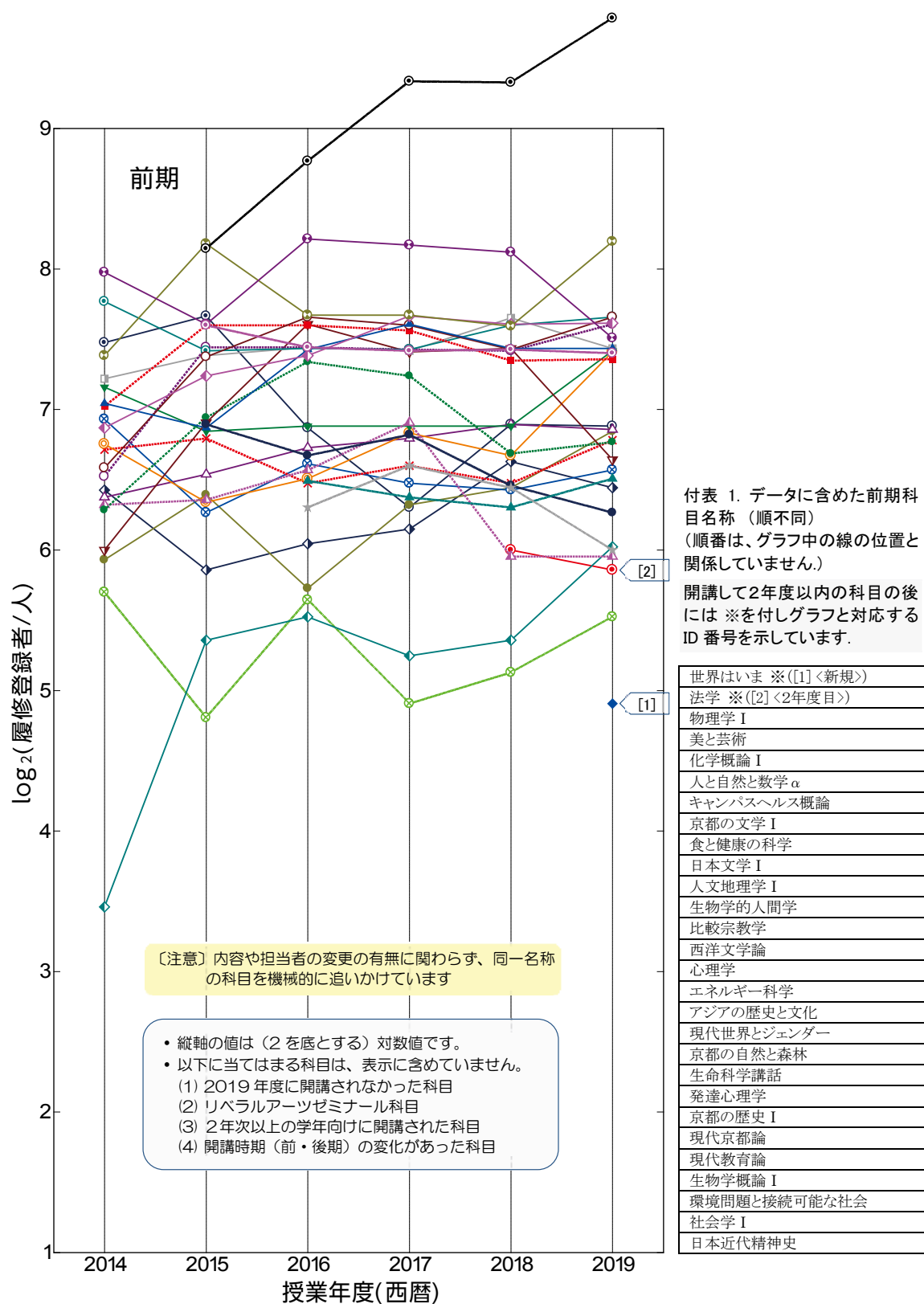


図 2. 各科目履修登録者数の歴年変化（前期開講分）

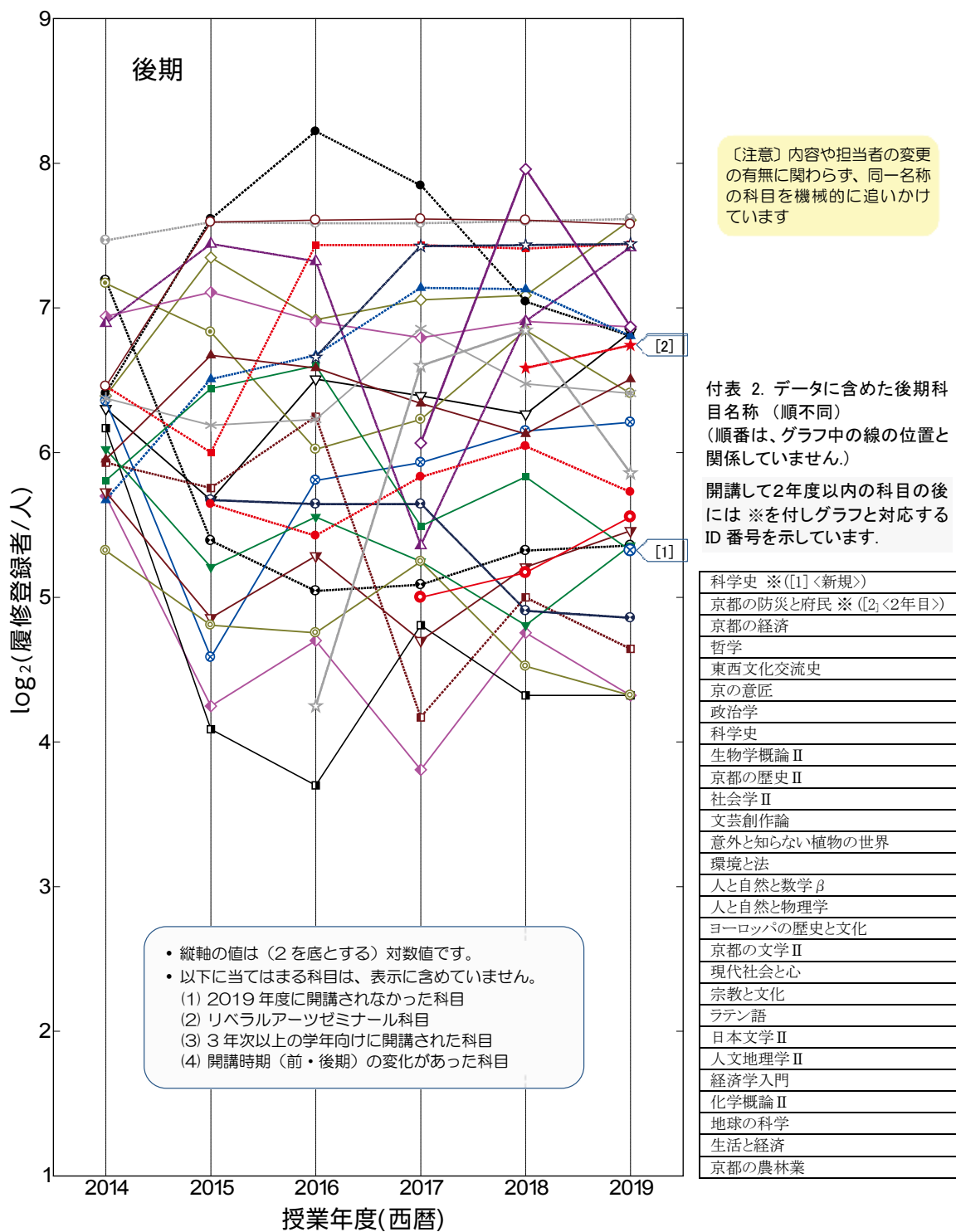


図 3. 各科目履修登録者数の歴年変化 (後期開講分)

ライン全体が描くパターンを、前・後期別に眺めると、大局的な動向がわかる。前年の報告では、前期は高止まり安定的、後期は不規則な大幅変動を示すことを述べた。そこからの進展を探る観点に立てば、今年度の後期のパターンに若干の変化の兆しが見える。前年から本年度への各科目履修者数の変動は従前に比べて小さく、ほぼ水平に伸びたラインも目につく。さらにまた、人数がいくつかの段階に分かれて収束しているようにも見える。こうした受講者数の安定は、教室割りあて等の実務サイドおよび授業を組み立てる教員サイドのどちらにとっても、計画を立てやすくしてくれる好ましい傾向である。

以上のように、開始2年目に行われた定員制限の見直しから足掛け4年間に渡った緩和的現象が観察されたことになるが、もちろん、安定・定常的に至ったからそれが最適だとは言えない。受講者が大人数となる場合には、その教育環境、効果、成績評価などに関する検討が必要であろうし、少人数が定着する傾向であれば、能動学習の形式を積極的に採用できる一方で、それに適した教室の確保が問題になる。こうした問題について、各担当者側と、運営の側が、(余計な手続き等を介さずに) ストレートに意見を交わせる体制を築くことが、今後に取り組むべき課題になると考える。

2.1 年次生アンケート

共同化科目を実際に受講した1年次生を対象に、後期の最終段階で、Web フォーム入力形式のアンケート(本報告書 p.47 ~ 48 に掲載)を実施している。授業アンケートとは異なり、個々の学生が履修科目を選ぶ際の意識の持ち方や、新たに求めている科目カテゴリーを察知して、抽選の採り入れ方や科目構成の立案に活かす役割を担っている。

以下では、現時点で得られている2018年度までの回答に基づいた見解をまとめるが、はじめに、

対象者総数に対して回答が返ってきた割合(回答率)に言及しておく必要がある。図3に、全体の回答率の歴年推移と、2018年度の大学別の回答率分布のグラフを示した。総合回答率は、特に前年度に大幅に落ち込んだが、2018年度には、従来の水準にまで回復した。ただし、35%(弱)の値に戻っただけであり、期待する十分な回答数は得られていない。大学別分布を見ると、回答率50%以上は工繊大のみで、府立大と医大で20%を下回っている。このアンバランスは、統計をとったときに工繊大生の回答に重みが偏る結果を招く。今後の計画策定に資する情報源としようとする立場では、かなり扱い難いものになってしまっている。工繊大では、学生のWeb アクセスを必須とする学務手続きが運用されていることが、高い回答率に寄与していると思われるので、こうした方式を三学間で統一して採用することが検討に値する。

上のことを念頭に置きつつ、いくつかピックアップした選択肢回答の推移を図4(a) ~ (c)に表してみる。(a)は抽選制度に対する学生の反応であり、2015年度以後2回目の調査までは肯定意見のポイントが上昇していたが、最近2年間は、そのピークからやや低下した位置に評価が落ち着いた感がある。例年、自由記述回答の中に、希望の集中と単位取得の容易さを関係づけた声があることを考えれば、特に本問については、ポイントの向上に意識を向けるだけでは、本質的な問題点を見失う恐れもある。抽選制の運営の仕方は、現状で一応完成していると考え、今後は、評価基準や学習時間についての考え方に議論の観点を向けていくことがより大切になるだろう。

(b)は科目の満足度であり、最高値が常にポイント4程度に達していることは、教養科目を規則によって強制的に取らされていると感じる学生がいる現実を踏まえれば、十分高い評価にあたる。

(c)は、他大学生との交流の機会の回数を問

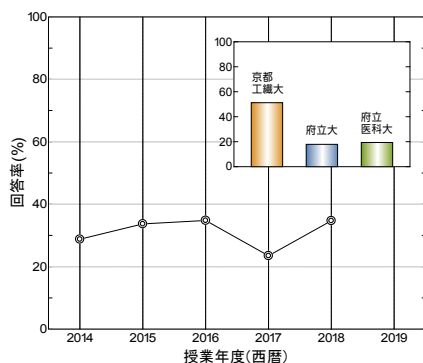


図4. 1年次アンケート回答率(%)の推移.
挿入図は大学別の回答率(2018年度).

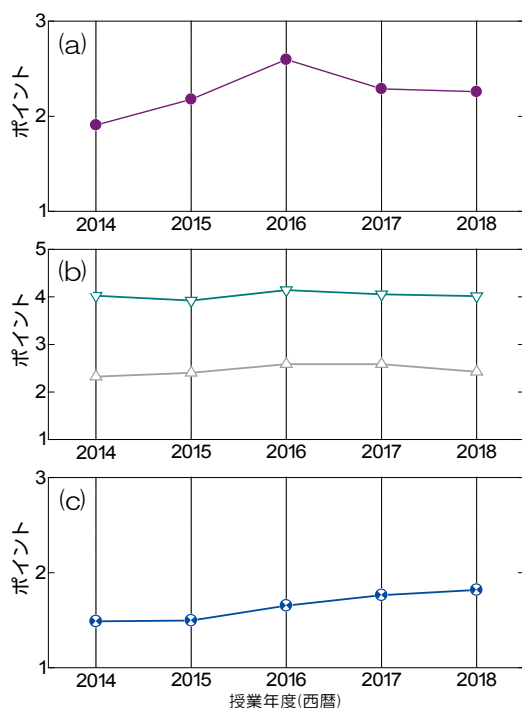
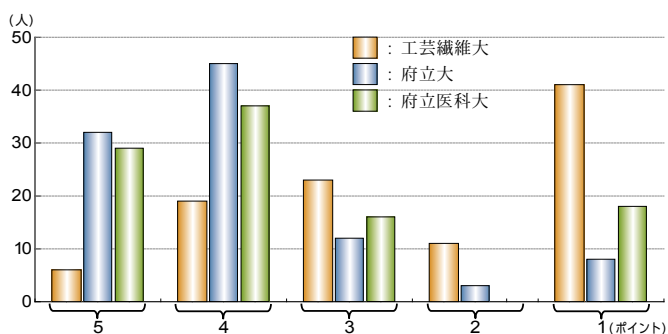


図5. 1年次生アンケート結果(ポイント化し得るいくつかの事項)の年次推移。(内容は各右側に記載)



問3., 3-1 履修登録科目を選ぶときに、「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」(オレンジ色の冊子)どの程度役に立ったか。
とても役に立った ⇒ 5
役に立った ⇒ 4
少し役に立った ⇒ 3
役に立たなかった ⇒ 2
利用しなかった ⇒ 1

図6. 1年次生アンケート問3の3-1に対する回答の大学別人数分布.

うた結果である。平均値が年度を追うごとに少しずつ着実に上昇しているが、前回には、少人数の参加者の側からは交流が十分肯定的には受け取られていない可能性も指摘した。この傾向は、今回の調査でもほとんど変わらなかった。各担当教員諸氏には、もし担当クラス中に少人数の大学の受講生がいる状況であれば、このことを多少意識して、発言の誘導などを工夫されるとよいと思う。

その他、大学間での差が顕著であった項目について付記する。「受講案内」の冊子が登録科目の決定に役だったかどうかを問う設問では、府立大生の大多数が肯定的に答えたのに対して、工繊大生の多くが利用しないと答えている（図6）。この冊子には、シラバスとは異なる形のメッセージ欄もあるので、工繊大新入生に対する当冊子の配布や紹介の仕方に工夫を加えるなどして、活用を促してもらうことを望みたい。また、建物・設備に対しては、府立大生が辛めの評価を与えるのに比べ、他大学生の評価値は明らかに高い。学生の‘ホーム’と‘アウェイ’の感覚の違いが現れた形だが、1年生が感じる大学の設備水準（教室まわりのトイレ等）に対する希望が表れたものとして参考にすべきとも言える。

なお、自由記述を通じて伝えられた受講生の意見は、機構内で十分検討し、対する回答をまとめて（各大学の学生向けポータルサイト上に）掲示する取り組みを続けている。これは、回答率の低さの難に関わらず確実な意義をもつことと、あらためて認識している。

3. 共同化科目担当者会議 および教員アンケート

毎年度に、共同化科目の担当教員の中の数名の方から、各位の授業の実践に関する報告をしていただき、様々な情報の共有と意見交換を行う「共同化科目担当者会議」を開催している。本年度は、11月25日に、山田悦 先生、長岡徹郎 先生、

塚本康浩 先生 の3名の方にお話しいただいた。当日の参加者は32名であり、活発な意見交換がなされた。報告された内容は、本報告書第3部に授業研究の形で掲載しているので、是非ご覧いただきたい。

また、共同化科目ご担当者全員を対象として、電子メールによる記述方式の「教員アンケート」を実施している。細事から全般的なことまで、各科目の内側から得られる情報やご意見ご要望などを何なりと伝えていただければ幸いである。後日に、寄せられた内容に対する機構各担当からのコメント等をまとめ、一括してメールでお知らせする予定である。

4. 授業評価アンケート

各大学独自の授業アンケートとは独立に、共同化科目用のアンケートを実施している。回収された結果は、機構事務側で（委託業者も使い）集計・チャート化した上で、各担当教員宛に届けられるので、授業内容のさらなる工夫・発展に役立ててほしい。

むすびのひとこと

今さらではあるが『大学』の（古典的な）歴史に興味を惹かれている。大学は、自由学芸を志す者の共同体として誕生したらしい。その純粹理念に対して、産業革命、科学の制度化などの流れが次々に楔を打ち込んでいった。‘考える葦’たる人の素朴な営みに、近代科学の凄まじい効用を支配や富や名声に結びつけようとする欲望が介入したわけである。この経緯が土台となって、異種理念がせめぎあう今日の大学の構造がある。異なる理念は、共存すれば新たな展望をもたらすだろうが、席捲を目指す争いとなれば、消耗と衰弱に行き着くのみである。共存の知恵を出せるか否か、その力が今我々にこそ問われている。

(3) 三大学教養教育共同化意見交換会

三大学教養教育共同化は、事業開始後5年を経過し、提供科目数が一定確保されたが、今後の科目の内容充実や質の向上等に向けて、教養教育関係の学識経験者から助言等を求めるため、三大学教養教育共同化意見交換会を開催したものである。



日時及び会場

令和元年9月3日(火) 午後6時～8時30分
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」
2階 211 講義室(京都府立大学内)

出席委員等

○ 学識経験者

- ・ 林 哲介氏(京都大学 名誉教授)(座長)
- ・ 高橋由典氏(京都大学 国際高等教育院 特定教授、副教育院長)
- ・ 川島啓二氏(京都産業大学 共通教育推進機構 教授、初年次教育センター長)
- ・ 飯吉弘子氏(大阪市立大学 高等教育研究院 大学教育研究センター 教授)

○ 三大学の教職員

- ・ 各大学の副学長ほか教員10名、職員15名

開催内容

(1) 教養教育共同化の取組状況等への質疑等

教養教育共同化の取組状況や課題等について事務局から説明の上、各委員と質疑応答を行った。

(2) 出席者による意見交換

学識経験者の委員から、教養教育に関する他大学の取組や国の高等教育改革の動向、経済界からの要請等の事例紹介の後、教養教育共同化の課題と対応について、各委員間で意見交換を行った。

① 教養教育に関する他大学の取組事例等

【高橋委員】

京都大学の教養教育は、総合人間学部と大学院人間・環境学研究科が中心となり科目を提供し、国



際高等教育院が各学部にも科目提供を要請することにより全学体制で実施している。同院が管理する科目数は半期ごとに約550科目前後(コマ数はその3～4倍)で、科目構成については、自然科学系の教養科目が少ないのが特徴である。

2013年の同院の設置後、英語による授業科目や少人数教育の拡充、教養科目の開講時間帯に専門科目を入れない時間割のブロック化等を実施し、クラスも一般的な科目では100～200人で開講している。教養教育の授業実践の情報共有と、管理部門と授業を実践する教員との連携を図るため、本年9月に教養教育実践研究会を設立予定である。

現在も教養科目を担当しているが、授業では学生をインスパイアすることを目的にしており、他の教員にも、各専門分野で学生をインスパイアするために工夫をしてほしいと要請している。

【川島委員】

九州大学では、小人数による科目「基幹教育セミナー」や「課題協学」を必修化しており、各学部の学生が混在し、担当教員は全学的に対応している。京都産業大学でも「自己発見と大学生活」の科目があり、66人1クラスでグループワーク



を行い、上回生のファシリテーターが付いている。

いずれの科目もコミュニケーション力や課題解決力の向上等が目的で、国の高等教育改革に対応したものであり、多くの学生を対象とするため、マニュアルにより授業内容の標準化を図っている。

国の高等教育改革では、2008年以降の中教審の答申で学士力のような新しい能力が打ち出され、本来は学士課程教育全般に関係するが、教養教育に焦点化されることが多かった。教養教育に最も影響を与えたのは、2010年の日本学術会議の提言で、学位プログラムの構築等で影響力を発揮した。

経団連から、データサイエンス等を教養教育に含めるべきとの要請があり、大学として要請に沿うのか、要請を客観視して教養教育を考えるかで立場の違いがある。大学と経団連の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の共同提言でもリベラルアーツ教育の重要性が指摘されている。

【飯吉委員】

日本の経済界からの大学教育に関する要請は、90年代後半から基本的に大きな方向性は変化していない。その内容は、課題発見・解決能力や行動力、リテラシー、コミュニケーション力、創造性、多様性など自ら問い続ける人材を求めるもので、大学と経済界の双方の考え方が近付いてきているほか、米国の経済界のニーズも同様である。

2000年代以降に見られる経済界からのイノベーション要求では、チームを自由自在に組み替え、多様な関係者の連携・協業が求められ、チームに参画できる個人の育成が重要となっている。

経済界からの要請への大学側の対応としては、大学がやるうとしてきたことや、やるべきことを遂行することが重要である。米国のAAC & Uの「21世紀のリベラル教育の学修成果」は、全



分野の全学生に必要で、大学までの一連の教育で段階的・発展的に身に付けるべきものとされている。

教養教育の内容も大事だが、具体的にどう展開し実践するかが大事で、学生にどのような知識を与えよう学ばせるか、どういう態度や能力を身に付けさせるかを重視すべきである。カリキュラムでは、学修段階に合わせたキャップストーン科目の設定や学生が自分で考え点検する機会の保証などを通じ、学修成果を担保することが重要である。

大阪市立大学では、学生が学修を振り返り、学修計画を構築し、学修成果を他者に説明できるツールとして「OCU指標」を開発している。教養教育は、教科会議による委員会方式で運営し、全学出動体制で提供している。学士課程の教養科目は、全学部全学年の学生が履修可能である。大学院生向け教養科目も19科目開講している。

② 各委員による意見交換での主な意見

【林委員（座長）】

三大学の共同化では、リベラルアーツ科目に限定して実施し、外国語や専門基礎科目、マニュアル



化されたゼミなどは各大学で独自に実施することが基本的な考え方である。共同化の開始当初は、必要な科目数の確保が課題であったが、今後は、新たな社会情勢や学生の状況を踏まえて、科目の構成や内容をどのように考えていくのが課題である。

教養教育では、決められたカリキュラムのもとで、学生が身に付けるべきことをあらかじめ設定するよりも、バラエティに富んだ科目を提供し、学生が自由に選択することで、身に付けたいものを主体的に学ぶことが望ましいと考えている。

共同化教養教育に対する専門課程の教員の係わ

りが十分に議論されていないと感じる。教養教育は共同化に任せるような認識があると思われ、各大学で専門課程の教員も含め、共同化科目にどのような科目を提供し、科目担当どのように分担するのかを議論をすべきである。

【高橋委員】

京都大学の教養教育では、ディシプリンであることを失わないことを基本としており、標準化された入門的・概論的なものでなく、教員が各分野の学問での研究内容を伝えることを重視している。

単位に見合う内容をその授業が有しているかは、教員がどのような授業を展開するのかに最も依存しており、形式的な要件を確保するよりも、授業の中身の充実を図るべきと考える。

学生が、教養教育で学ぶ科目や内容をカリキュラムで詳細に決めるのは教養教育の趣旨にそぐわないと思われ、学生が学問の世界の豊かさにインスパイアされ、高校までの学び方を変化させることが教養教育の重要な役割であると考えている。

三大学においては、各大学に共通した教養教育の明確な理念や合意があることが必要であり、その理念や合意が各大学の努力を促し、教員の教養教育への動機付けにもつながると考えている。

【川島委員】

三大学共同化のカリキュラムデザインが十分に議論されていないと感じるため、カリキュラムやプログラムのデザインを考える時期に来ている。

各大学では、学生に身に付けさせることを教育目標として掲げており、その達成のためにネックとなる部分で、教養教育で対応すべき点を三大学で共有化すべきである。その上で、バラエティに富むことが良いとの前提で、学習成果として学生に何を身に付けてもらうのかを出発点にカリキュラムをデザインすることが必要である。

教養教育はその良さや意義を分かり合える教員の共有により成り立っていると思われる。九州大

学では、教養教育に関心のなかった教員が、科目の担当を割り当てられて教養教育の授業を行い、その重要性や面白さに気付いた例もある。

【飯吉委員】

大阪市立大学では、教養教育科目の選択は学生の主体性を重視している。教養教育を通して、学生が知の広がりを知り、様々なディシプリンの中で自ら物事を俯瞰して捉え、学問知を活用しながら問い続けていける姿勢の育成も大事だと考える。

米国では90年代に大学教授職の学識の再定義が行われ、研究力や教育力のほか、統合力・応用力も必要とされ、自分野の専門知を知の体系に位置づけて説明・活用することも求められている。教養教育が単なる基礎的な内容の教育ではないことを、各大学のFD等で議論し、教員間で確認していくことも重要である。大阪市立大学では、教員が教育や改革の事例を紹介し共有し合う場を多く設定し、毎回多数の教職員の自主的参加がある。



開催を終えて

意見交換会では、三大学の教職員から他大学での教養教育への全学的な対応等への質疑があったほか、教養教育における学生の主体性の尊重と授業内容の充実、学生の学修成果を担保するためのカリキュラムデザイン、担当教員の確保等の様々な観点から、各委員の間で活発な議論が行われた。林座長、高橋委員、川島委員、飯吉委員におかれては、三大学教養教育共同化の今後のあり方への貴重な意見をくださり改めて感謝を申し上げます。

(4) 三大学学生交流企画 「学生がつくる！！グッとくる授業」

京都三大学教養教育研究・推進機構 リベラルアーツセンター長／京都府立大学 教授

岡本 隆司

日時及び会場

2019年12月9日(月) 17:50～20:15

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

2階 201 講義室(京都府立大学内)

参加者

46名(学生27名(工繊大15名、府立医大4名、
府立大8名)、教職員19名)

主 催

京都三大学学生交流会

開催の目的

本企画は、三大学の学生間の授業外での交流機会の充実を目的として、三大学の学生が気軽に参加でき、継続性のある新たな学生交流企画として、三大学の学生や教職員が議論を重ね、協力して開催に至ったものである。



京都工芸繊維大学の1回生の富永佑季氏をはじめとする「京都三大学学生交流会」の学生の熱意と、リベラルアーツ・ゼミナール担当教員の児玉英明先生と播磨弘先生の多大なご支援により実現することとなった。

交流企画の概要

本企画は、2019年11月に結成された学生による自主的な活動グループ「京都三大学学生交流会」の主催による学生の自主的な活動として、「学生がつくる！！グッとくる授業」と銘打ち、三大学の教養教育共同化の授業内容の充実や学生の交流を目的とする「三大学の共同化授業をより良くするための話し合いの場」として開催された。

京都三大学学生交流会の代表である京都工芸繊維

大学の富永佑季氏の開会挨拶では、学生交流会を発足させた経過や教養教育を受ける意味、今回の企画の内容について説明があった。自分たちの環境を変えるために学生交流会を立ち上げたこと、自分が社会の中でどんな位置にいて、社会のために何ができるか、人生のコンパスとなる教養を学ぶ意味は、そうした自分の興味の範囲を広げることであると述べるなど、参加者に対して教養教育の意義や今回の企画の必要性などを問いかけるものであった。



今回の企画は前半の学生によるワークショップと後半の発表会で構成され、京都三大学学生交流会のメンバーである京都工芸繊維大学の田中敦也氏による司会で進行した。

○ ワークショップ

前半のワークショップでは、学生が5つのグループに分かれ、アイスブレイクとして1人30秒のスピーチの後、個人ワークとして、大学で受けた授業で、面白かった授業と面白くなかった授業とその理由を、ワークシートと付箋に記載した。

次に、付箋に書いた理由をもとに、ブレインストーミングを行った。そのうえで模造紙を使ったグループワークに移った。



模造紙に面白かった授業の理由と、面白くなかった授業の理由に分けて、付箋を貼り付け、同じような理由はグループ化するなどの分類集約を行った。また話し合う中で出て来たコメントなども新たに書き加え、いわば簡易なポスターを即席で作成していった。



こうしてグループワークで作成された模造紙は、会場に掲示の上、参加者が各グループの模造紙を見て回るポスターセッション形式で、参加者全体の意見共有が行われた。

模造紙にまとめられた、学生が面白かったと感じる授業や面白くなかったと感じる授業の主な理由は、以下のとおりであった。



(面白かったと感じる授業)

- 「一から調べて発表した」
- 「みんなで議論しながら問題を解いた」
- 「他の学生の制作物を見てアイデアをもらえる」
- 「授業の中で自分が考える時間を取ってくれる」
- 「実生活に結びつく知識が得られる」
- 「社会の問題につながる話」
- 「配布資料が適切である」「教科書や配付資料の分かりにくいところの補足説明がある」
- 「イメージや事例、先生の体験による説明がある」
- 「質問対応が神対応」「どこが要点か分かりやすい」
- 「先生が教えてることを好きなのが伝わる」
- 「先生とのコミュニケーションやフィードバックがある」「真摯さを感じる」



(面白くなかったと感じる授業)

- 「ひたすら座って話を聴くだけ」
- 「将来にどう生きるか分からない」
- 「何を伝えたいのか分からない」
- 「スライドが見にくい」「フィードバックがない」
- 「詰め込みで何が大事か分からない」
- 「レジュメに書かれている情報量が少なすぎ」
- 「プリントを読んでいるだけ」
- 「教授が学生の方を見ていない」
- 「先生がすぐ怒る、機嫌が悪い」
- 「多人数すぎて全員がその他大勢」

なお、ワークショップには、筆者をふくめ参加

した関係教員も、即興にて1グループを組んで、学生と同様にグループワークなどを行った。授業を担当している側なので、自己評価や反省・願望を出し、あるいは学生時代の昔話もしてみた観があるが、少なくとも筆者は楽しく、最後の学生とのグループ・ディスカッションにも役立った。

○ 発表会

後半では、はじめに共同化授業の「リベラルアーツ・ゼミナール」の「現代社会に学ぶ問う力・書く力」と「レーザで測る、創る、楽しむ」の授業紹介と成果発表を受講生のグループが行った。



受講生からは授業の成果として、高校と大学での学び方の違いや複眼思考の必要性などへの気づき、専門外の分野への興味が得られたことや、自ら発表し他の受講生との質疑応答を通じて、相手に説明する力や対話する力を身に付けたことなどが報告された。また担当教員の児玉英明先生と播磨弘先生から、発表内容や授業の目的などに関するコメントもいただき、少人数で学生が議論し、発表などを行う「リベラルアーツ・ゼミナール」の目的や学習効果を一層明確にすることができた。



次に、共同化授業を受講した上回生の京都府立大学生命環境学部3回生の河戸くるみ氏と文学部3回生の池田野々花氏から、現受講生とは異なる視点から、共同化授業の受講がその後の専



門科目の学びなどにどのように役立ったのか、また三大学の学生による交流活動を行った時の経験談などの紹介があった。

以上を手がかりに、教員も学生のグループに参加の上、今回の交流企画全体を通じた感想や意見などのグループ・ディスカッションを行った。

最後に三大学の副学長からコメントと挨拶をいただき、急遽参加をいただいた工織大の森迫清貴学長からも総括的なコメントを頂戴し、今回の交流企画の成果と意義を確認した。



締めくくりとして、京都三大学学生交流会の代表である富永佑季氏と、同交流会のメンバーの京都府立医科大学の落海雄泰氏から、参加した学生と教職員へのお礼と同交流会の今後の活動、メンバーや協力者の募集の説明があり、本企画を終了した。



開催の成果と今後の展開

今回の交流企画は、学生と教員の双方にとって、お互いの率直な意見を直接交わす貴重な機会となり、有意義なFD活動になったものと考えている。

京都三大学学生交流会では、今回の交流企画終了後も、授業アンケートの実施や学生に共同化授業の紹介などを行うツールの開発、新たな交流企画の開催などに向けて、継続的に活動している。

引き続き、京都三大学学生交流会の活動に期待するとともに、学生の自主性を尊重しつつ、可能な限り同交流会の活動をサポートしていきたい。

(1) 三大学共同化教養教育で環境の講義を担当して
(科目名: 環境問題と持続可能な社会)

京都工芸繊維大学 名誉教授
山田 悦

1. 講義の経緯

三大学共同化教養教育として環境の講義「環境問題と持続可能な社会」は2014年に開講し、2014－2016年の3年間は京大名誉教授の高月紘先生（ペンネーム High Moon）が講義を担当されていた。私は、京都工芸繊維大学で学部生用の「地球環境論」、「環境化学」、「環境マネジメント」、大学院生用の「環境化学特論」、「環境物質化学」など環境関連の講義を担当してきたが、退職1年前の2017年からこの講義を引き継ぎ既に3年が経過した。

講義の受講登録者数は毎年90名前後で、高月先生ご担当の時から大きな変化はない（表1）。大学ごとの内訳では、2017年は京工繊大が80%以上と多く、京府立医科大はゼロであったが、年々他大学の割合が増加して2019年は京工繊大と京府立大の学生がほぼ同数となった。

表1 各大学の受講登録者の変遷

年度	京工繊大	京府立大	京府立医科大	計	担当
2017	74	15	0	89	山田
2018	52	18	16	86	山田
2019	42	44	9	95	山田
2016	59	28	11	98	高月

2. 講義の概要

講義の目標は、日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を理解し、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める

ことである。講義の内容としては、表2に示すように、公害など地域環境問題、地球規模の環境問題、環境倫理、自然生態系の保全、持続可能な社会にむけての取り組みなどを取り上げている。

表2 講義テーマ・内容

1. 日本の環境問題の変遷 (1) 足尾鉾毒事件、四大公害問題
2. 日本の環境問題の変遷 (2) カネミ油症事件、日本の公害対策
3. 地球環境問題 (1) 温暖化問題 (京都議定書、パリ協定)
4. 地球環境問題 (2) オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染
5. 地球環境問題 (3) 熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の減少 有害廃棄物の越境移動、途上国の公害問題
6. 環境対策としての法制度 環境基本法、環境基本計画、環境基準
7. 国際的な環境対策 国連環境計画、国際条約、議定書
8. 生態系の保全 生態学、生物多様性条約、生態系と化学物質
9. 環境倫理 (1) 環境倫理学、生命倫理と環境倫理
10. 環境倫理 (2) 権利の問題、世代間倫理、企業倫理
11. 持続可能な社会にむけて (1) 資源問題と廃棄物、3R、廃棄物処理の現状
12. 持続可能な社会にむけて (2) 温暖化問題とエネルギー、温暖化防止対策 原発問題、再生可能エネルギー、低炭素社会
13. 持続可能な社会にむけて (3) 環境経済、経済学から見た環境問題など
14. 持続可能な社会にむけて (4) パートナーシップの取り組み、環境教育 事業者、行政、市民の取り組み、CSR、EMS
15. 持続可能な社会にむけて (5) エコロジーテスト、自分のエコロジー度を測る

講義では、できるだけ写真、図表などを提示し、環境問題の現状や課題をビジュアル的にわかりやすく教えている。環境関連データや環境汚染防止技術などはできるだけ最新のものを提示している。講義は PowerPoint を使用し、毎回配布資料を配っている。これは、資料を配らなければスマホで写す学生が多数いるためである。講義の1回目に、配布資料を配るのでスマホの使用を抑えるよう学生に注意している。また、配布資料は概要にとどめ、PowerPoint で示す追加資料及び板書や口頭で伝えた事柄などは、必要と思えば学生自身がノートや資料に記述するように促している。参考図書として、「地球環境論－緑の地球と共に生きる－」(山田悦, 山下正和ら, 電気書院)、「環境倫理学」(鬼頭秀一, 福永真弓, 東京大学出版会)、「新・環境倫理学のすすめ」(加藤尚武, 丸善ライブラリー)、及び「環境経済学」(植田和弘, 有斐閣ブックス)など環境問題、環境倫理、環境経済の本を紹介している。講義で伝える重要ポイントを表3に示す。

表3 講義で伝える重要ポイント

1. 人間中心から地球環境中心へ
2. 生物多様性の重要性
3. 何事も良い面と悪い面がある
(例) 地球温暖化の主たる原因物質とされる CO_2 がゼロになると平均気温 15°C から -18°C に低下
4. 生物濃縮
環境に出た時に希薄な濃度でも安全とは言えない
化学物質－メチル水銀, PCB, DDT など
5. 汚染物質の長距離輸送
酸性雨問題 イギリス, ドイツ → 北欧
PM2.5 など 中国大陸, 東アジア → 日本

地球規模の環境問題の拡大を防ぎ、対策を講じて問題解決するためには、これまでの人間中心主義から地球環境中心に考え方を変え、生物多様性の重要性を認識する必要がある(図1と2)、単にそのことを知識として理解するだけではなく、若いこれから社会に出て行く受講生が自分たちの問題としての当事者意識を持ち持続可能な社会形成にむけて行動できることが重要である。

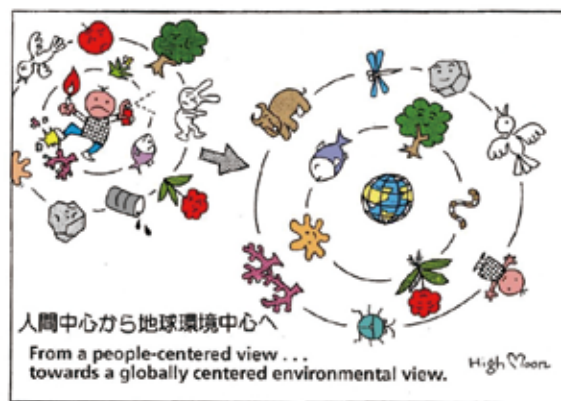


図1 人間中心から地球環境中心へ

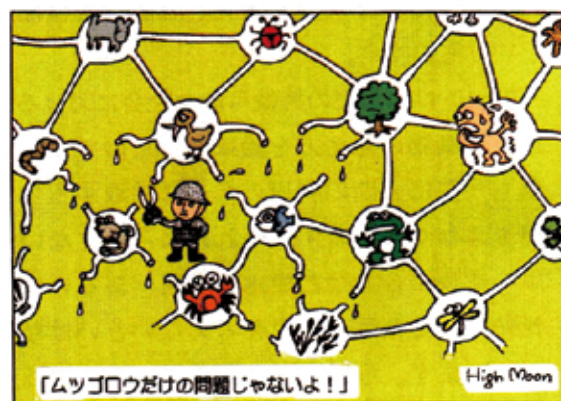


図2 生物多様性の重要性

また、表3には何事も良い面と悪い面があることの例として二酸化炭素を挙げているが、オゾン層破壊を防ぐために合成された代替フロン温暖化への影響や水をきれいにしようとしての塩素

処理による有害なトリハロメタン生成など、意図しないことが生じる可能性があるので、環境対策、環境保全には物事を多面的に考えて対応することの重要性を伝えている。さらに、水環境や大気環境に化学物質が出た場合、希釈や拡散で問題のない濃度になると考えているだろうが、そうでない場合があることを認識していないと大変なことになる。メチル水銀などの有機金属化合物や DDT などの有機塩素化合物など疎水性で分解しにくい化学物質は、生物濃縮の作用により環境水では希薄な濃度でも食物連鎖の過程で濃度が高くなり、人、哺乳動物や鳥などに被害が生じる。酸性ガスや PM2.5 などが国境を越えて長距離輸送され、酸性雨問題や健康被害が発生することもある。持続可能な社会形成のためには、これらの重要ポイントを認識して行動する必要がある。講義中には学生に質問して意見を聞くが、積極的に発言する学生は少ない。そこで、配布資料には図 1 や 2 のような当日の講義内容を表現している漫画を「」内の説明などを消して記載し、PowerPoint でも提示して、どのような語句が入るかなどの質問をしている。漫画なので学生も発言しやすくなり、これを見せることで理解は深まっていると考えられる。

毎回の出席は取っていないが、三大学共同化科目の受講生は講義の出席率が良く、一つの大学の学生だけを教えている時よりも講義中の私語が少なく真面目に受講しているという印象である。しかし、いずれの場合も積極的に発言する学生は少なく、受講者数も多く理解度も異なるため、様々な環境問題について議論するところまでもっていくのは困難であり、今後の検討課題である。学生の成績評価は、小テスト 1 回、レポート提出 1 回及び定期テスト(記述式)で行っている。受講

登録者の受験率は 90%以上と高く、二回生以上の一部を除くとほぼ全員の学生が受験している。60 点以上を合格としているが合格率も高く、受講している学生は真面目に勉強していると言える。

3. 今後の課題

この講義は 2014 年に高月先生が始められ、私はそれを引き継いでいるので、細かい講義の進め方については変更しているが、骨格はほぼ変更していない。しかし、講義の中に別立てで入っている環境倫理学や環境経済学は、1 回生にとっては、やや難しいと感じられる。講義内容が非常に幅広くなり、教える方も教えられる方も時間的余裕がないのが現状である。そのことは、今回の研究報告会でも指摘されたので、来年度は環境倫理や環境経済の話をも別立てにせず入れる形にシラバスを変更しようと考えている。そして、持続可能な社会形成にむけて何をすべきか、何ができるかの議論を講義中に学生とできるよう工夫していこうと考えている。

(2) アクティブラーニングを利用した多角的な宗教の学び (科目名: 比較宗教学)

京都大学 非常勤講師
長岡 徹郎



1. 本授業の紹介

まず本授業について簡単な紹介を行う。本年度における学生数は195名であり、内訳は京都工芸繊維大学が102名、京都府立大学が61名、京都府立医科大学が32名となっている。授業内容としては、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム・仏教・日本人の宗教観に関する基礎知識を学ぶことで、現代における様々な宗教問題に対して主体的に考察する力を身につけることを目指している。

神社仏閣の多い京都の学生といえども、仏教や神道がいかなる宗教か説明できる学生は、ほぼいないといってよい。学生たちは高校時代に世界史や倫理の授業などから最低限の宗教に関する知識を学んでいるとはいえ、それらの宗教に関する体系的な知識については何もわかっていないのである。例えば学生は、「悟り」や「仏」などの言葉を聞いたことがあったとしても、仏教の教義におけるそれらの位置づけは理解していない。他の宗教も同様である。そのため、マスメディアなどから得た偏った宗教イメージから、宗教に対して否定的な印象を抱いている学生も多い。そこで本授業では、様々な宗教と正しく向き合う視座を養うことにも重点をおいている。



2. アクティブラーニングの導入

私の授業の特徴として、積極的にアクティブラーニング（以下AL）を導入していることが挙げられる。京都大学高等教育研究開発推進センター主催の若手研究者によるAL型授業の実践を目指したFDプロジェクトに、私は2016年度以来講師とスタッフとして参加している。そこで学んだALの経験を活かして、自分の授業においても

ALによって学生が主体的に参加できる授業をデザインするように努力している。

私が授業にALを導入する理由としては、以下の2点が挙げられる。

まず1点目は、学生にとって宗教を学ぶことは、異文化理解につながるということである。異文化理解において重要なことは、相手と同じ気持ちになることではなく、相手を自分と異なる文化背景をもつ「わかりあえない他者」として認識することにあると、私は考えている。宗教は長い歴史を通じてあらゆる文化の根幹を担ってきた。そのため私たちは、宗教を学ぶことで、それぞれの文化が自分と全く異なる考え方をしていることに気がつくことができるのである。

そのため本授業では、ALを通して学んでいる宗教と自分の宗教観との相違点がどこにあるのかを意識させるようにした。例えば、授業を聞くまで学生にとってキリスト教はクリスマスや結婚式で接することもあるので、仏教や神道とならぶ馴染みのある宗教かもしれない。そこで、「前回学習したキリスト教の神が、日本の神とどのように異なるのかあなたの考えを書きなさい」という課題を授業の最初に学生に課す。この課題をはさむだけで学生は、キリスト教と自分の文化との相違をはっきりと自覚しながら、授業を聞くことができるのである。

2点目は、理系と文系という異なる学問分野をもつ学生の出会いを活かすためである。専門教育に特化しつつある現在の大学において、理系と文系の学生が交わる機会はそれほど多いとはいえない。そのことは、学生たちが自分と異なる考え方や問題関心をもつ人々と接する経験が少なくなっていることを意味する。そこで、私の授業ではALによって学生同士の対話をうながすよう心がけている。学生たちは対話によって、同じ問題に

対して様々な考え方をしている人がいることを知るのである。そのことは、自らの価値観を相対化してより広い視野へと開くことにもつながるであろう。

3. アクティブラーニングを導入した授業の実践例

それでは実際の授業においてアクティブラーニングがどのように運用されているのかを、ある授業を例にとりながらみていきたい。この授業は、日本人が果たして無宗教なのかという問題を考えてもらうことを目的としている。宗教を学ぶためには、まず宗教に対する否定的な先入観を是正して、宗教と自身の関係について改めて考え直すことが必要となるからである。

授業の最初に取り上げる題材は、1996年7月8日の朝日新聞に掲載された以下のような記事である。富山県内の一部の公立小中学校では、子供たちが給食のときに「合掌」の号令とともに手を合わせていたが、父母の一部から、特定の宗教を強制するものと中止を求める声が上がり、取りやめた学校が出た。この問題は県議会でも取り上げられ、合掌が「単なる慣習」かどうかをめぐる議論が広がっているという記事である。この記事を読んだうえで学生たちに、自分ならば「合掌」をやめることに対して賛成か反対か立場を明らかにし、その理由について書いてもらった。

この課題を通して学生たちは、「合掌」のような習慣的な行為が宗教といえるのか、そして「合掌」という習慣的な行為が私たちにとってなぜ必要なのかという問題について考えることができる。「合掌」という身近な行為によって宗教との距離を縮め、学生の思考力を刺激することが、この課題の狙いである。

課題に取り組むことで問題意識を植えつけたう

えで、河合隼雄の「いただきます」に対する解釈を紹介する。河合によれば「いただきます」とは、私たちが自然と「何か知らない存在」に対して敬意をもつことを「ごく自然に」行うことができる不思議な行為である。それは、神という明確な祈りの対象をもち、聖俗を区別するキリスト教圏とは異なる宗教的態度といえる。つまり、「いただきます」というありふれた日常の行為を掘り下げたところに、私たちの宗教性が垣間みえてくるのである。こうして学生たちは、信仰をもっていなかったとしても、特定の宗教に由来していない「何か知らないもの」、つまりは超越的な存在に無意識のうちにふれていることに気がつくのである。以上から「宗教」は、特定の教義や組織をもった宗教に限らず、人間の根本的なあり方に関わっていることがみえてくるのである。

ここで、この合掌問題に正解がなかったとしても、講師が自らの立場を学生にきちんと示すことが必要である。というのも、学生が講師の意見に対して批判的な意見をもつことが、宗教を自分の問題として考える視点を養うことにつながるからである。そのためには、講師も学生と同様に賛成か反対かを表明しなければならない。学生であっても講師に怯まず対話できるような思考を引き出す課題選びが、ALにおいて重要となるのである。

4. まとめ

ALの強みは、学生たちが授業内容を自らの問題として主体的に考えることができるようになる点にある。ALを通して学生たちは、偏見から脱して宗教を人間の問題として捉え直し、自らの興味関心にひきつけて「宗教とは何か」を考察するようになる。その「自分」の考えこそが、様々な宗教と向き合う視座の礎となるのである。

(3) 三大学教養教育における人文地理学の取り組み (科目名：人文地理学)

京都府立医科大学 非常勤講師

古関 大樹

1. はじめに

筆者は、前任者から引き継ぎ 2018 年度から人文地理学Ⅰ（前期）、人文地理学Ⅱ（後期）を担当している。筆者がこれまで経験してきた大学の地理学の科目は、文学部や教育学部の専門科目で 2～4 回生の受講者が多いが、京都府立医科大学・京都府立大学・京都工芸繊維大学の三大学教養教育の場合は、教養科目にあたることから 1 回生の受講者が大多数を占めている。

前期の講義開始時は、まだ初々しさも残る学生が多いが、大学生生活に慣れてくると三大学の校風の違いが出席カードのコメントや受講生の反応などに表れるようになり、筆者としても他校では得難い経験と楽しみながら務めている。受講者数は下の表の通りである。受講者数は比較的多く、学校間の偏りは少ない。

年度	学期	医大	府立大	工繊大	合計
2018	前期	57	46	69	172
	後期	29	34	57	120
2019	前期	64	61	77	202
	後期	26	57	88	171

2. 講義の概要

受講者は、高校地理を選択した学生が半数程度いるが、本講義では、高校時代に取得した知識がどのように活きるのかを伝え、一方で、高校地理を選択しなかった学生でも復習の機会となるようにテーマごとの概説から丁寧に説明している。

中学・高校イメージから、地理学は暗記科目と誤解されてしまいがちであるが、本質的には地表の諸現象の成り立ちや、自然と人の関わりなどを探求する学問である。地理学が扱う分野は非常にすそ野が広いが、旅行先で気が付いたこと、住宅を購入する際の注意点、報道の中の自然現象や社

会問題など、身の周りで起こる様々な問題を考える契機として、暗記ではない地理学の楽しみ方を伝えるよう心掛けてきた。

地理学では地図をよく扱うが、1 枚の地図の中には様々な人間の活動や自然・環境が描かれている。また、現代社会の成り立ちを考える上でも過

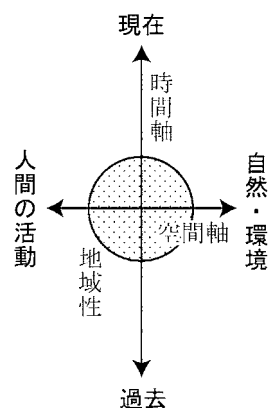


図1 地理学の考え方

去からの蓄積や変化を検証することも重要である。

前期のはじめの頃は京都の歴史と地理をテーマに講義を進めた。学生生活を送る京都の土地鑑を養ってもらう意味もあるが、江戸時代に運河として高瀬川が作られた地理的背景や現在も残されている意味、琵琶湖疎水が京都の近代化に果たした役割など、実際に見に行ける場所をテーマに地理学の考え方（図1）に慣れてもらう機会にした。

その後は、平野の開発、地域の調査方法、災害と暮らし、文化的景観などをテーマに国内のほかの地域も取り上げた。後期は、農業地域、用水の確保、観光地域、工業地域、都市と郊外、グローバル化など、より現代的なテーマを取り上げた。

なお、本講義は人文地理学であるが、土地ごとの地形や気候といった自然現象も地域の成り立ちに影響を与えている場合が少なくない。現在の環境問題を考える上でも不可欠な知識となるので自然分野に関するキーワードも高校地理の復習も兼ねて解説した。

3. アクティブラーニングの取り組み

100 名以上となると、教員からの一方通行的

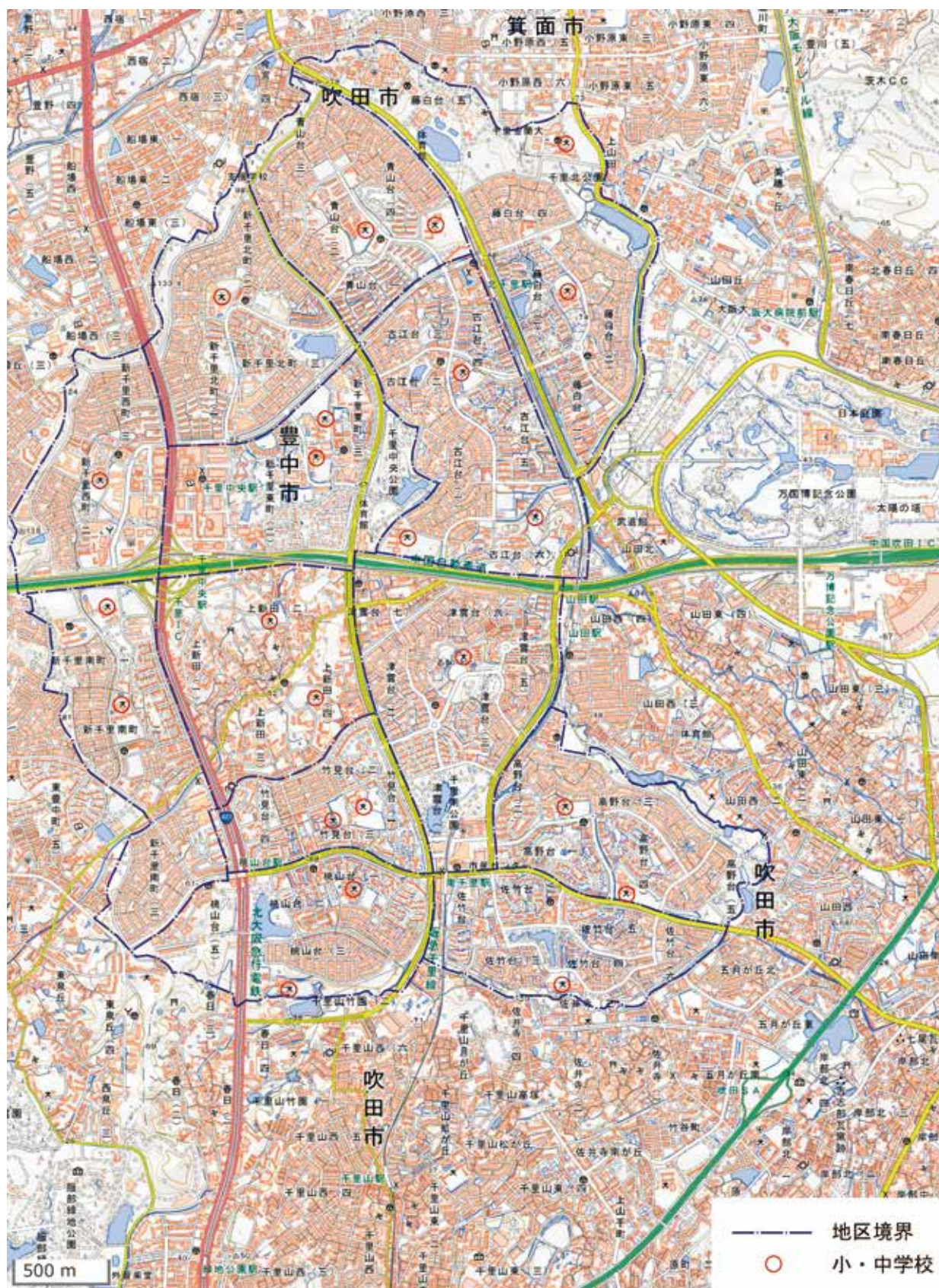


図2 千里ニュータウンの地区境界と小・中学校 (地理院地図をもとに作成)

な講義にならざる部分も避けることができないが、地理学では演習を取り入れた講義の実践例や教材・資料集などの蓄積がある。そこで、①取り上げるテーマや地域の概説、②ミニ演習、③考察とまとめという構成で各講義を組み立て、学生が能動的に考える機会を設けられるよう工夫した。地理教育講座第Ⅰ巻(2009年)では、地域の中からなぜを発見し、どのように説明できるのかを考えることが地理学の特徴の1つとして解説されているが、ミニ演習を通して地域を観察する楽しさも学んでもらえるよう心掛けた。

例えば、図2は、大阪府の千里ニュータウンの地形図である。この講義では、概説(①)で都市の近代化に伴いニュータウンの概念が成立した背景、日本初の大規模ニュータウンとして千里ニュータウンが造成された経緯などを解説した。また、演習(②)では、何も塗っていない地形図を配り、次の順で色を塗りながら地域を観察してもらった。(1) 鉄道・モノレール・高速道路をまず塗り、位置関係を把握する。(2) 千里ニュータウンを構成する地区(青山台など)の境界が記された別図を配り、見比べながら地形図に転写する。(3) 小学校・中学校の地図記号に○をする。また、観察する際のポイントとして(A)「地区の境界は何で構成されているか」(B)「学校はどのように配置されているのか」という問いを事前に示し、考えながら作業してもらうようにした。

15分程度で図2のような地図を各受講生が作り上げるが、(A) 幹線道路が地区境界になっていること、(B) 地区ごとに小学校が1つずつあることに気付いてくれる学生が多い。ニュータウンの概念は、1924年にアメリカのクラレンス・ペリーが提唱した。これは、幹線道路を計画的に配置することで歩車分離を図ると共に、地区ごとに学校など配置することで地域コミュニティの

育成を図るという考えが骨格になっている。作業の速度が受講生によって異なるため、演習の時間がある程度過ぎると出席カードを配布しているが、自分で気付くことができたと好意的なコメントが寄せられることが多い。

考察とまとめ(③)では、千里ニュータウンの写真を示し演習の内容を確認した。また、1970年以降の人口・世帯数や年齢別人口の推移を示し、近年社会問題化している新興住宅地の高齢化が生じた背景や千里ニュータウンにおける再開発の取り組みを紹介した。

各講義の演習では、同じように地図塗りを行ってもらう機会が多いが、異なる2つの地域の写真と統計資料を配布して5～10分程度考えてもらう時間を作り、挙手制で気が付いた点を1つずつ発表してもらう方法をとる時もある。

例えば、図3はGoogle Earthで出力した牧之原台地(静岡県)と南薩台地(鹿児島県)の空中写真を並べたものである。Google Earthは、撮影地点の標高値と撮影高度が表示されるため、これらを調整して同じ縮尺の画像を表示することができる。

静岡県は全国約40%の生産量を誇るお茶の産地で、約30%弱の鹿児島県が追随している。この講義では、概説(①)で2つの台地の地形の成り立ちと茶園が開発された経緯を解説し、演習(②)に移った。演習では、本稿に掲載した空中写真のほかに平坦地と斜面地の風景写真、静岡県産と鹿児島県産の茶葉の平均価格、1959年～2012年までの両県の茶葉の生産量のグラフを示し、これらを見比べながら気が付いた点をメモし、挙手制で気が付いた点を1つずつ発表してもらった。

学生からは様々な意見が寄せられたが、整理していくと2つの茶産地の地域間競争の様子が浮かびあがってくる。牧之原台地は、明治初期に人

の手で茶園が開かれたため、形が不揃いで小さな圃場も多い。また、アスファルトで舗装された道路に面していない茶園も多く、全体的に計画性が乏しい。これに対して、1970年の圃場整備で本格的に茶園が開かれた南薩台地は、茶園の形が揃っており、アスファルト道路に面している。

考察とまとめ(③)では、得られた意見をもとに写真を追加して解説した。後発の産地である南薩台地では、機械化を前提に茶園が作られており乗用型の茶狩機が普及している。また、鹿児島産の平均価格は静岡産よりも7割程度安く、1990年代後半に急速に生産量が増えた。ペットボトル入り緑茶が販売された時期と重なっており、大資本の需要を鹿児島産が掴んだ様子が分かる。しかし、ブレンド販売される緑茶飲料の土台としての役割を担うため、鹿児島産の認知度はあまり高くない。

身近なものをテーマにしたこともあり、カバンの中からペットボトルを出して確認する学生や、出席カードのコメント欄で様々な商品の産地表示を確認したいと書いた学生が多くみられた。また、ほかの人と自分の意見を比べながら考察を深める授業も面白いというコメントも得られた。

4. おわりに

三大学教養教育の受講生は、様々な学部・学科の学生が集まっている。地理学は、人文・自然に関する様々な事象を取り扱うが、コメントを見ると幅広い視野を学ぶ講義と受け止めて貰えているようである。出席カードのコメントは特に求めているが、8割前後の学生が自発的に書いてくれる。三大学教養教育のいい風土であり、教員も学ぶことが多い。講義で紹介した場所に行ったというコメントは大変励みになった。

インターネットで閲覧できる地図(地理院地図、Google Earth、埼玉大学谷謙二教授提供の今昔マップなど)や政府統計の総合窓口(e-Stat)など講義で紹介したHPを自宅で使ってみたという学生も多かった。講義の中だけで完結するのではなく、今後の活動で活用してもらいたい。

本講義の資料作りでも、これらのHPをよく活用した。また、古今書院の『地図で読む百年』シリーズなど新旧地形図を対比する形で収録した出版物も使いやすく、昔と現在の変化が面白いと学生からの反応がいい。受講生達からのコメントを参考にしながら今後も講義の改善を重ねたい。



図3 牧之原台地(上)と南薩台地(下)の空中写真
(Google Earthより)

【参考文献】

- ・中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正 編、地理教育講座第Ⅰ巻『地理教育の目的と役割』、古今書院、2009年
- ・中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正 編、地理教育講座第Ⅱ巻『地理教育の方法』、古今書院、2009年

(4) ドイツ人学生と学ぶドイツ語と文化

(科目名：映画で学ぶドイツ語と文化)

京都府立大学 教授
青地 伯水

今年の『映画で学ぶドイツ語と文化』は、面白い授業になった。というのも第2回目の授業から、10名ほどのクラスにひとりのドイツ人学生が参加したからである。名前を書いてもらおうと、Jennyとある。おお、イエニーといえば、尊敬措く能わざるカール・マルクス夫人と同名である。出身地を問えば、ケルンという。トリアーでないことは残念であるが、そう遠くはない。大学での研究をきくと、京都工芸繊維大学大学院で建築の研究をしているとのこと。ケルンで建築家といえば、有名なベーム・ファミリーですね、という微笑んでくれた。賛否両論の斬新なイスラム寺院には言及しなかった。

かくなる次第で、ドイツ人の前で日本人学生にドイツ語を教える。映画『点子ちゃんとアントン』のシナリオを丁寧に読んで、重要表現を覚えるのが、この授業の前半である。もちろんドイツ人女性には、苦もなければ、そんなことは目的でもない。テキストの朗読を命じれば、すらすらと読むのは当たり前、子供が親に使う表現などを尋ねると、自分の経験を交えて話してくれる。さすがに大半の受講者には、通訳が必要だが、それでも理解は深まり楽しい。また、ペアワークでドイツ語会話の練習をするにも、彼女との会話は最上の練習である。学生からの要望もあり、彼女の隣席は、毎回ローテーションで回すことにした。

後半の授業では、とくにドイツの戦後史にかかわる映画を見た。これらの作品のDVDを数週間前から学生たちに貸し出して、自宅で見せよう。映画の一部を見せて私が授業で解説し、授業の終わりに10分間でレポートを書いてもらう。ただし、レポートはスマホで書いて私に送ってもらう。ドイツ人女性もドイツ語で送ってくれる。これらを編集してプリントにし、次週議論の対象とする。

ドイツ語の部分は、彼女に朗読してもらい、学生が理解できないときは、私が翻訳をする。また日本語の議論が少しでも彼女に伝わるように、私も努力をした。

ロッセリーニ監督の『ドイツ零年』は、戦後のがれきの山のなかで暮らすドイツの人々を描いた作品である。元ナチスの教師に感化され病気の父親を殺す少年が主人公で、ナチスを克服しきれない社会がテーマである。また、ベルリンの壁をテーマにした『トンネル』は、東西に恋人が引き裂かれ壁のもとで落命するなど、移動の自由を奪う社会に対する抵抗のものがたりである。ドイツ社会が背おわされた分断国家をテーマにしている。民主化を求めたはずの68年運動の負の遺産、赤軍によるテロを描いた『バーダー・マインホフ』では、社会の担い手であるナチス世代と当時の若者の対立をテーマにしている。

ドイツ人学生の自国の戦後史に対する認識の深さには感心した。戦後のナチス問題、東西対立、赤軍テロに関して、堂々と自分の意見を言える。同じことを日本人学生が体験したらどうなるだろうか。戦後の貧困のなかで、労働者がわずかな金を奪い合い、立ち退きで家族が引き裂かれる今井正監督の『どっこい生きていく』、日本で徴用された朝鮮人とその日本人妻の北朝鮮行きを描いた浦山桐郎の『キューポラのある町』、理想に燃えて時の政府に反逆し、リンチによって自滅する、赤軍テロの末路を描いた若松孝二の『実録 あさま山荘への道程』。日本の学生が、これらの作品を海外で見せられたら、自国で起こった出来事と認識できないのでは。一般に日本の学生は、心配なく戦後の歴史や社会を知らない。しかしこれは、私の授業のテーマとは別問題。いや、これも映画を通して、私が教えるべきでは、という気

持ちは心の奥底にある。

ところで、このドイツ人学生の授業参加の目的は何だったのか。おそらく、ドイツ語の授業で日本語を学びながら、ドイツ語に興味のある日本人と知り合うことだろう。GWには、彼女と数名の日本人学生希望者を募り、お茶会をおこなった。狭い茶室で長い脚を折りたたむのは、数分しかもたなかったが、日本人学生ともども楽しい体験になった。また、これも授業時間外だが、ドイツ人と希望する学生と葵祭を見に行った。牛車の軋む音に胸を躍らせて斎王代を待つ姿には、ドイツ人も日本人もない。祇園祭山鉾巡行前祭の時間がちょうど授業時間と重なったので、ほぼ全員で見に行った。これらは外国語で日本の文化を語るいい機会となった。こういう次第で、映画のみではなく、ドイツ人からも学ぶドイツ語と文化となった。

さて、授業期間の6月ごろ、日本でも『フォー・ミニッツ (4分間)』というタイトルで公開された女性ピアニストを描いたドイツ映画をひとりで見ていたとき、主人公がイエニーと呼ばけられて、「私はジェニーよ!」と言い返す場面に遭遇した。こめかみに冷や汗が流れた。次回の授業で、「ひょっとしてあなたの名前は、ジェニーと発音するのか」と聞いたら、「そうよ」という。この2か月間のことを詫びると、笑顔を返してくれた。ドイツ人も英語発音の名前を好む、とどこかで聞いたことがあったが、こういうことか。マルクスは遠い時代の人になっているが、私はそうならないようにしなくては。

(5)「聞き書きエッセイ」の計画と手順、工夫

(科目名：文芸創作論)

京都府立医科大学 特任教授

藤田 佳信

本科目では、オリジナルなエッセイの創作を最終の課題にしています。読書感想文と紀行文、聞き書きエッセイの3編です。3つめの「聞き書き」は、昨年度から始めました。以下に、その一回目の成果をご紹介します。

冬休みに入る前、課題の聞き書きエッセイについて話をします。計画と手順、工夫について。目的を達成するための、プログラミング的な発想で計画し、前もって準備し、手順を踏んで創作します。作品を書くプロセスが、とても大切だという話。なんでも形にするまで、完成形にまでもってゆくには、効率的な段取りが必要です。

まずトピックを選ぶ。心配して質問にくる受講生もいます。創作への本気度、あるいは意識の高い人に多いです。心配性かも知れませんが。とにかく、トピックは何でもOKです。現代医療からスポーツ、仕事、戦争体験、食の問題、ゲームとかファッション、あるいは趣味、何でも。

結果は、予想外に多種多様なエッセイが出てきて、どれも興味深く読みました。素朴で生真面目なインタビューから、工夫を凝らした小説風のスタイルまで、実に様々です。「先生とチロルと天球」というタイトルのエッセイは、童話の一節を想わせます。大学生活が垣間見える、バイト・将来の進路・クラブ活動など等。友人から聞いたという「叫び」は、家族をめぐる深刻な話です。中にはなぜか、聞き書きの課題とは異なる、自由な(?)エッセイもありました。

それにしても、せっかく興味あるトピックを思いついても、肝心の語り手が見つからないと、目的を達成できません。そのためか受講生の多くは、身近な人、父母や祖父母、あるいは親戚の人、友人・知人・先輩などから話を聞いています。近親

者の思い出話でも、トピックは色々。障害者の就労支援施設の話、母親が現役薬剤師の受講生は、「仕事」について、管理栄養士なら「食生活」という具合です。おばあちゃんが美容師さん、というのもありました。東日本大震災の聞き書きは、東北訛りも再現して、リアルな描写です。受講生の多くは、聞き書きを通じて、身近な人をそれまでとは異なる視点から見ていたのではないかと感じました。

トピックが決まれば、下調べをし、質問項目を予め用意しておきます。ただし、聞きたいことを聞き出すとか、結論を引き出すためではありません。語り手の話ぜんぶに興味をもって耳を傾けます。耳を澄まして、という姿勢で。

科目の担当者としては、面識のない人からも話を聞き取ってほしいと希望しています。話を聞きたいと思っても、話し慣れた人は別にして、一般にふつうの人は、ものを語りません。話を聞きたいと言われても、戸惑う人も多いのではないのでしょうか。警戒されるかもしれません。ふだん、人はふつう、人の話を真剣には聞かないものですから。

聞き書きをつづけていると、幸運にめぐまれ、良き語り手と出会うこともあります。「心に留めておくこと」というエッセイは、知らない人から聞き取った話です。先の大戦中のゼロ(零式)戦闘機パイロットの体験談ですから、大変貴重なものです。「思い切って自宅を訪ねてみた。呼び鈴を押すとしばらくしてから小柄な老人が姿を見せた」と、エッセイの冒頭にあります。細かいことまで注意して、丁寧に聞き取ってありました。老いた語り手にとっても、若い聞き手にとっても良い出会いだったに違いありません。完成したエッセイは、両者のコラボレーションの成果だと言え

ますね。

面識のない人では、保護観察所の所長さんに取材したものもありました。「暖かな優しさと崇高な哲学を持って」というタイトル。よく整理された、分かりやすい文章です。あるいは、山で林業に従事する人から聞いた「植物の生態系」。

聞き書きエッセイの創作は、一つの出会いから生まれ、語る人とのコラボレーションで仕事をするのだと、私はよく話しています。人と協力して仕事をする、ということです。他の誰かが語り紡ぎ出す世界の中で、自分はひたすら聞いて書く役割を担います。授業で取り上げた宮本常一や石牟礼道子の仕事はその典型です。そんなふうにして聞き書きをすると、コラボした人の想いや記憶、経験、生きた証しを大切に思えるようになります。コラボした人から影響を受け、創作の姿勢も変化し、進化します。はじめは、好きなことを好きなときに好きなように書いていたのが、計画して、手順を追って、工夫しながら創作するようになります。

今、社会あるいは世界の動きに関心をもって観察していれば、創作も社会と関連しながら変化していることに気づきます。受講生には、個としてものを書くよりも、社会と向き合い、人とのつながりの中で創作してほしいと思っています。

受講生の課題エッセイを、私は基本的に2回読みます。1回目は、ふつうの、一般の読者として読みます。個人的にあれこれ感じ想いますが、それは評価とは関係ありません。2回目は、科目の担当者として、評価のために読みます。評価の基準は、文章のうまさとか、作品の良し悪し、出来栄えではありません。他の人の作品と比較はし

ません。では何をするのか？！

まず、作者自身が自分の文章につけた、タイトルがあるかどうかを確認します。タイトルがないのは、人やペット、ものに名前がないのと同じです。名前のないものは、存在しないのと変わりません。タイトルをつけて、エッセイは完成します。読者にすれば、タイトルがないと文章の行き先やねらいが予測できないので、文の連なりをたどってゆくのがしんどいです。読者に親切ではありませんね。講義中にその話はくり返ししているつもりですが、タイトルのないエッセイが幾つかあります。

つづいて、タイトルと本文の整合性をチェックします。エッセイや本のタイトルは、商売で言えば、お店の看板みたいなものです。死語になっているかも知れませんが、「羊頭狗肉」という言葉があります。肉屋の看板がりっぱな羊の頭なのに、実際はイヌの肉を売っていた、という話です。書店の本にしても、同じことが言えます。せっかく魅力的な、キャッチーなタイトルを思いついたのに、内容とズれていては、読者に納得してもらえません。タイトルは、作者がぜひ言いたいこと(テーマ)を簡潔に表現している必要があります。先ほどのたとえ話で言えば、エッセイのタイトルは、お店の看板みたいなものです。看板の表示は、売り物と一致するように心がけ、看板をかけ忘れないようにしてほしいです。

(本年度もパワーポイント・スライドの作成&修正は、奥島デザイン工房・奥島肇さんのお世話になりました。記して感謝の意を表したいと思います。)

(6) 横のつながりを創る社会科教育 -丸山真男『日本の思想』の精読を通じて- (科目名: 社会科学の学び方)

京都三大学教養教育研究・推進機構 非常勤講師

児玉 英明

Ⅰ はじめに -大学間連携の先進事例-

京都三大学教養教育研究・推進機構は、近年注目されている大学間連携のさきがけと言える存在である。互いに専門領域の異なる三大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）が連携し、新たな教養教育を創り出している。

三大学の大学間連携で特筆すべき点は三点ある。第一に、卒業認定単位に組み込む際に上限があった「単位互換」から、他大学が開講する科目も自大学が開講する科目と同等に扱い、認定単位の上限を撤廃した「共同化」へと進化したことである。「単位互換」から「共同化」への進化を実現するためには、三大学の学年暦や履修システムの調整、三大学の多様な学生を指導する科目担当者会議（FD）の共催など、様々な側面から制度を調整することが必要である。第二に、三大学の学生は、毎週月曜日に教養教育共同化施設「稲盛記念会館」に集い、同じ教室で混在しながら授業を受けていることである。第三に、三大学の学生交流を実質化する文理様々なリベラルアーツ・ゼミナールが開講されていることである。各大学10名の定員で、三大学から30名の学生が集まり、リベラルアーツ・ゼミナールを履修している。開講して6年が経つリベラルアーツ・ゼミナールは、三大学の取組において、新たな学生交流を生み出す拠点となりつつある。その担い手となる学生が複数のリベラルアーツ・ゼミナールで活躍している。



民主主義を考える対話型授業の実践

Ⅱ 三大学における学生交流の新展開

一学年の収容定員は、京都工芸繊維大学が約600名、京都府立大学が約400名、京都府立医科大学が約200名である。専門性の異なる、小規模な三大学が、教養教育にターゲットを絞って大学間連携を進めた。各大学の強みを活かした連携によるシナジー効果によって、学生の科目選択幅は大きく拡大し、量的にも質的にも充実した。

講義型授業を寄せ集めただけでは、科目選択幅は増えても、学生交流は生まれない。連携を実りあるものにするためには、三大学の学生交流を促す仕組みを、カリキュラムに埋め込む必要がある。

その点で、多様な専門性を持った学生が、対話を積み重ねながら少人数で学ぶリベラルアーツ・ゼミナールは、京都三大学教養教育研究・推進機構から生まれた特徴的な取組である。教養教育で大切なことは、考え方の異なる他者との対話姿勢を身に付けることである。それを修得するために開講したリベラルアーツ・ゼミナールは、三大学の横のつながりを創る科目として定着しつつある。

2019年度は、リベラルアーツ・ゼミナールを履修する学生を中心とした、大学の枠を超えた交流サークルも生まれている。その具体的活動として、12月9日の放課後に、三大学の様々な学年の学生、および教職員が集まり、それぞれの立場を超えて、同じテーブルで教育改善を議論した。このような取組が発生したことは、大学間連携の画期である。



学生・教員・職員が横につながる三大学交流会

Ⅲ「ササラ型」と「タコツボ型」の対比

教養教育の古典として定評のある丸山真男『日本の思想』に「思想のあり方について」という論文が収録されている。リベラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」では、その論文を精読している。丸山の主張は、一言でいえば、「横の交流を大切にせよ」ということである。

丸山は、「ササラ型」と「タコツボ型」という概念を用いて、図式的に日本社会を分析している。ササラとは、竹の先を細かくいくつにも割ったものである。手のひらでいえば、元のところが共通していて、そこから指が分かれて出ているような型をササラ型と呼んでいる。一方、タコツボとは、文字のとおり、それぞれ孤立したタコツボが互いに交流もなく並列しているさまである。

丸山は「近代日本の学問とか文化とか、あるいはいろいろな社会の組織形態というものがササラ型でなくてタコツボ型である」¹と見ており、この現実をふまえて社会を学ぶことの必要性を説く。内と外を隔絶したタコツボ型組織は、タコツボ間の横の交流を乏しくする。そのため、往々にして、タコツボ型組織は、その集団内部だけでしか通用しない考え方に陥っている場合でも、そのギャップをうまく認識することができない。

続けて丸山は、日本の学問の在り方を論じている。ヨーロッパの個別科学には、ギリシャ・中世・ルネッサンスという長い共通の文化的伝統が根にある。一方、日本は、ヨーロッパの学問を開国期に受け入れた際に、その共通の根を切り捨てて、ササラの上端の個別化されたタコツボのみを受け入れた。そのタコツボが、現在の大学の学部や学科の分類名となっている。このようなササラとタコツボの対比は、大学における「総合的教養」の貧弱さに眼を向けるきっかけを示している。

Ⅳ「サロン」としてのゼミナール教育

丸山は「思想のあり方について」の中で、日本には多数の総合大学があるが、その内実は「学部」という「タコツボ」が並立した集合体に過ぎないと捉えている。そのような大学では、タコツボを包括するような「総合的教養」は与えられず、総合大学（ユニバーシティ）という本来の意味からは、甚だ遠い教育機関になってしまっている。

丸山の論考を教養教育に引きつけて読み、特にリベラルアーツ・ゼミナールの立ち上げの際に指針にしたのは次の記述である。「日本の特殊性はどこにあるかという、ヨーロッパですとこういう機能集団の多元的な分化が起こっても、他方においてそれとは別のダイメンジョン、それと別の次元で人間をつなぐ伝統的な集団や組織というものがございます。たとえば教会、あるいはクラブとかサロンとかいったものが伝統的に大きな力をもっていて、これが異なった職能に従事する人々を横断的に結びつけ、その間のコミュニケーションの通路になっているわけです。ところが日本では教会あるいはサロンといったような役割をするものが乏しく、したがって民間の自主的なコミュニケーションのルートがはなはだ貧しい。」²

丸山のこの記述を導きの糸としながら「横断的なコミュニケーションを促進する『サロン』のような授業形態を京都三大学教養教育研究・推進機構のカリキュラムの中に埋め込めないか」と考えた。異なった大学に所属し、異なった専門を専攻する三大学の学生を、横に結びつけ、その間のコミュニケーションの通路になるような授業として、リベラルアーツ・ゼミナールを立ち上げた。ササラとタコツボの対比を教養教育の原理に据えて、横の対話を促進する場としてのリベラルアーツ・ゼミナールに教養教育の復権を懸けたのである。

V 「公共」という概念を議論する

リベラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」では、教養教育の古典を丹念に精読し、そこからディスカッションを誘発する「問い」の提示に力を入れている。一義的な「答え」を探すのではなく、多様な考え方を持った他者の存在が浮き彫りになるような問いを探すことに意識を向ける。

ところで、京都府立大学には公共政策学部という学部がある。学部の名称になっていることもあり、授業の中で、「公共政策学部の『公共』とはどのような意味ですか？『公共』という言葉聞いて何を想像しますか？」と問いかけている。他大学の学生からは、公共とは「図書館」や「道路」のことであるという意見が出る。他大学の学生から見ると、公共政策学部は、図書館の運営や道路の建設を勉強している学部としてイメージされている。実際はそんなことはないので、公共政策学部の学生は、図書館や道路といったイメージを修正したいが、結局、公共という概念をうまく言語化することができない。そこで、普段、何となく分かったつもりで、公共という概念を振り回し、抽象的な概念とその具体例との間に、十分な往還が行われていないことに気付く。

日本において公共という概念をうまく説明できない理由は、異なった職能に従事する人々を横断的に結びつけ、その間のコミュニケーションを促す役割を持つ「サロン」のような組織が乏しいことにあるのではないかと。タコツボ組織が並列しているがゆえに、公と私をつなぐ、政府と企業をつなぐ、組織と組織をつなぐなど、そのはざまに位置して両者を架橋する活動をうまく想像できないことにあるのではないかと。国家としての狭義の公とは違う、公と私の間に広がる組織も含めた公、およびその活動への想像力が求められている。

VI おわりに－主権者教育として－

リベラルアーツ・ゼミナールでは、一義的な回答が定まらない現代の諸問題について、根気強く考え続けることを説いている。意見が分かれる時事問題を考えることは、たしかに面倒なことである。しかし、面倒だからといって、それを考えることを一部の政治家に白紙委任してしまえば、私たち一人ひとりが主権者として民主主義に参画するという理念を自ら放棄することになる。私たちが主権者であり続けるためには、たとえ考えることが面倒に感じて、私たち自身が社会のことを学び続けなければならないのだ。

大学で学問を学ぶ以上に大切なのは、世の中には自分とは異なる考え方をする人間が多数いることを知ることである。また、「民主主義的な姿勢とはどのようなものなのか」を自問自答しながら、自分とは考え方の異なる他者との間で対話を重ねていくことである。

時には、他者との間で激しい衝突をすることもあがあるが、その衝突経験から、今後社会で生きていく上での「打たれ強さ」や「柔軟性」を身に付けて欲しい。多様性理解の場として、民主的市民形成の場として、横のつながりを創る社会科教育を今後も実践していきたい。



リベラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」

¹ 丸山真男『日本の思想』岩波書店、1961年、144頁。

² 同上、153頁。

(1) 2019 年度京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿

令和元年 6 月

大学名	京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会									
	担当副学長		リベラルアーツセンター		教育 I R センター		規約第 4 条第 2 項による者			
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸 繊維大学	副学長 (研究科長・ 学部長)	前田 耕治	基盤科学系 教授	人見 光太郎	センター長 電気電子工学系 教授	萩原 亮				
京都府立 医科大学	副学長	奥田 司	生物学 教授 教養教育部長	小野 勝彦	生命基礎 数理学 教授	長崎 生光	学生部長	田中 秀央	看護学科長	岩脇 陽子
京都府立大学	運営委員長 副学長 (教務部長)	石田 昭人	センター長 文学部 歴史学科 教授	岡本 隆司	生命環境学部 生命分子化学科 教授	織田 昌幸	教養教育 センター長	椎名 隆		
京都三大学 教養教育研究 ・推進機構							京都府 公立大学法人 三大学連携担当課長	河野 勉		

(2) 会議の審議状況

□ 副学長会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
令和元年 5 月 15 日 (水) 午後 1 時 00 分 ~ 午後 2 時 15 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 3 階 研究ゼミ室 2	【協議・報告等】 (1) 2019 年度の運営体制について (2) 2019 年度の予算・事業計画等について (3) 2019 年度前期 教養教育共同化授業の履修登録者について (4) 三大学教養教育共同化 意見交換会について (5) 三大学教養教育共同化 学生交流会について
令和元年 9 月 30 日 (月) 午後 5 時 50 分 ~ 午後 7 時 15 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2 階 会議室	【協議・報告等】 (1) 2020 年度以降の学年暦について (2) 2020 年度の共同化科目について (3) 学生交流について (4) 北山文化環境ゾーン・プロムナード整備について
令和 2 年 1 月 21 日 (火) 午後 2 時 30 分 ~ 午後 4 時 00 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2 階 会議室	【協議・報告等】 (1) 令和 2 年度の予算 (案) について (2) 令和 2 年度事業計画 (案) について (3) 三大学教養教育共同化意見交換会について (4) 京都三大学学生交流会の活動について (5) 運営委員会委員の選任について

□ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
令和元年6月10日(月) 午後1時00分～午後2時15分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	【開会】 (1) 2019年度運営委員等の紹介 【協議・報告等】 (1) 2019年度の取組について (2) 2019年度前期の履修登録者の状況について (3) 三大学教養教育共同化意見交換会について (4) リベラルアーツセンターからの報告 (5) 教育IRセンターからの報告 (6) その他 ・北山文化環境ゾーン広場・プロムナードの整備について ・体育館の整備について
令和元年8月5日(月) 午後5時50分～午後7時00分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	【協議・報告等】 (1) 2020年度学年暦について (2) 三大学教養教育共同化意見交換会について (3) 府公立大学法人 第3期中期計画の策定について (3) リベラルアーツセンターからの報告 (4) 教育IRセンターからの報告 (5) その他 ・北山文化環境ゾーン広場・プロムナードの整備について
令和元年11月1日(金) 午後1時00分～午後2時10分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 211 講義室	【協議・報告等】 (1) 2020年度学年暦について (2) 2019年度後期の履修登録者の状況について (3) 令和2年度の共同化科目の検討状況について (4) 府公立大学法人 第3期中期計画の策定について (5) リベラルアーツセンターからの報告 (6) 教育IRセンターからの報告 (5) その他 ・北山文化環境ゾーン広場・プロムナードの整備について
令和2年1月21日(火) 午後2時30分～午後4時00分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	【協議・報告等】 (1) 令和2年度共同化科目について (2) 「共同化科目担当教員の授業実施に当たっての留意事項」及び「令和2年度受講案内」について (3) 令和2年度三大学連携教養教育単位互換科目について (4) 2019年度後期試験教室配当について (5) 「2019年度活動報告書」の構成について (6) 府公立大学法人 第3期中期計画の策定について (6) リベラルアーツセンターからの報告 (7) 教育IRセンターからの報告
令和2年3月9日(月) 午後2時30分～午後4時00分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	【協議・報告等】 (1) 令和2年度共同化科目について (2) 令和2年度予算(案)・事業計画(案)について (3) 三大学教養教育共同化意見交換会について (4) 「共同化科目担当教員の授業実施に当たっての留意事項」について (5) 令和3年度学年暦の方向性について (6) リベラルアーツセンターからの報告 (7) 教育IRセンターからの報告 (8) 三大学教養教育共同化の現状と今後の課題について

□ 共同化科目担当者会議

開催日時	開催場所	内 容
令和元年11月25日(月) 午後5時50分～午後7時30分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 1階 106 講義室	【教育IRセンターからの報告】 履修者数推移と各種アンケートの結果から見えること 【科目担当者からの報告】 ・三大学共同化教養教育で環境の講義を担当して ・多角的な宗教の学びへ「理系」と「文系」との出会いを活かすアクティブラーニング ・生命科学講話という講義の現状 【意見交換】

京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート（2019）」

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんの意見・感想を今後の科目のあり方や実施方法の改善に活かすために行うもので、成績評価には一切関係しませんので、率直に答えてください。なお、集計結果の活用に際しては、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

科目名	
-----	--

※以下の各質問について、該当する選択肢の番号にマークしてください。

「記入上の注意」

- ① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。
- ② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- ③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

〈良い例〉 ● 〈悪い例〉 ○ ⊙ ⊗ ⊕

I あなたの所属は、次のうちのどれですか。

京都府立大学	① 文学部	② 公共政策学部	③ 生命環境学部			
京都工芸繊維大学	④ 応用生物学域、 生命物質科学域		⑤ 設計工学域	⑥ デザイン科学域、 造形科学域	⑦ その他	
京都府立医科大学	⑧ 医学科	⑨ 看護学科				
⑩ その他（						）

Ⅱ 学年をお答えください。

① 1回生 ② 2回生 ③ 3回生 ④ 4回生 ⑤ その他

Ⅲ この科目の出席状況をお答えください。

④ ほぼ全て出席した (12回以上) ③ かなり出席した (9～11回) ② あまり出席しなかった (5～8回) ① ほとんど出席しなかった (4回以下)

Ⅳ この科目について、1回あたり平均してどのくらいの授業時間外学習（予習・復習・情報収集・レポート作成等）をしていますか。

④ 120分以上 ③ 60分以上 ② 30分以上 ① 30分未満

V この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。
次の各項目に5段階でお答えください。

V この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。 次の各項目に5段階でお答えください。	強く 思う	やや 思う	どちら とも言 えない	あまり 思わな い	全く 思わな い
(1) この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ	⑤	④	③	②	①
(2) この科目や関連する分野の基礎的知識を修得した	⑤	④	③	②	①
(3) 世界の人々の多様な生き方に触れた	⑤	④	③	②	①
(4) 自らの生き方を考え、高い倫理観を培った	⑤	④	③	②	①
(5) 現代社会が抱える問題への関心が高まった	⑤	④	③	②	①
(6) 文献・資料などを検索し、読解する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(7) レポートを書く力が高まった	⑤	④	③	②	①
(8) 論理的に思考する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(9) 受講生や教員との議論を経験できた	⑤	④	③	②	①
(10) 自大学では学べない領域を学んだという実感があった	⑤	④	③	②	①
(11) 教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実感があった	⑤	④	③	②	①
(12) 課題や小テストなどのため、講義時間外でこの科目に充てる時間が多かった	⑤	④	③	②	①
(13) 成績評価の方法や基準が明らかにされていた	⑤	④	③	②	①
(14) 授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った	⑤	④	③	②	①

自由記述欄（付け加えたいこと、あるいはこのアンケートに関する意見があれば、お書きください）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

京都三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構 (2019 年度)

三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

(番号の後に * 印がある問は、必須回答項目です。)

このアンケートは、三大学教養教育共同化科目全般について、1 年次の受講生の皆さんからの意見や要望を集約する目的で、授業アンケートとは別に行うものです。ご協力をお願いします。

問 1. 三大学教養教育共同化科目（以下、共同化科目）の履修状況について教えてください。

問 1-1. 履修登録の初めに第 1 希望として提出した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問 1-1-1* 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 1-1-2* 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 1-2. 実際に履修登録した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問 1-2-1* 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 1-2-2* 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 1-3. 可否にかかわらず最終評価（試験やレポートなど）を受けた科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問 1-3-1* 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 1-3-2* 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問 2*. 履修登録時の抽選についてどう思いますか。[3. 現状でよい 2. どちらともいえない 1. できればなくしてほしい]

問 3. 前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方にお聞きします。共同化科目の履修登録科目を選ぶときに、以下の問 3-1～問 3-5 に挙げられているものは、それぞれどの程度役に立ちましたか。次の 5 段階で教えてください。[5. とても役に立った 4. 役に立った 3. 少し役に立った 2. 役に立たなかった 1. 利用しなかった]（共同化科目を履修登録しなかった方は問 6 にお進みください。）

問 3-1. 「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」（ピンク色の冊子） [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2. 上の問 3-1 で 3～5 と答えた人は、さらに問 3-2-1～問 3-2-4 に教えてください。それ以外の方は問 3-3 に進んでください。

問 3-2-1. 科目の概要 [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2-2. 学生へのメッセージ [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2-3. 授業目的区分 [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-2-4. 上の問 3-2-1～問 3-2-3 以外で役に立った部分があれば書いてください。[]

問 3-3. シラバス [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-4. 先輩や友人などの他の学生からのアドバイス [5, 4, 3, 2, 1]

問 3-5. その他に役に立ったものがあれば書いてください。[]

問 4. 履修登録時に第 1 希望の科目を選んだ主な理由を、次の中から 3 つまで選んでください。

- [1. 内容に興味があったから 2. 必要だから 3. 学びがよいある科目と思ったから
4. 単位が取りやすそうだったから 5. 親しみのある分野だから 6. 知らない分野だから
7. 担当教員に関心があったから 8. 自大学提供科目だから 9. 他大学提供科目だから 10. その他 []]

京都三大学教養教育研究・推進機構(2019 年度)

問 5. 今年度履修した共同化科目の満足度を、科目ごとに 5 段階で表すとき、満足度の最高値と最低値を教えてください。

問 5-1. 満足度の最高値 [5, 4, 3, 2, 1]

問 5-2. 満足度の最低値 [5, 4, 3, 2, 1]

問 6. 今年度の共同化科目の内容・構成についてどう思いますか。

問 6-1*. [1. 現状でよい 2. 改善・検討を望むことがある]

問 6-2. 問 6-1 で 2. を選んだ人は、具体的な意見や提案などを自由に書いてください。

問 7*. [工繊大生及び府大生対象] 来年度、共同化科目を履修しようと思いますか。

[5. ぜひ履修したい 4. 履修したい 3. 履修するかもしれない 2. わからない 1. 履修しない]

問 8. 前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方にお聞きます。共同化科目の履修を通じて、他大学の学生と対話する等の交流の機会は何の程度ありましたか。授業日以外の交流も含めて、前・後期別に、延べ回数で教えてください。(共同化科目を履修登録しなかった方は問 10 に進んでください。)

問 8-1. 前学期 [4. 7 回程度以上 3. 3~6 回程度 2. 1~2 回程度 1. なかった]

問 8-2. 後学期 [4. 7 回程度以上 3. 3~6 回程度 2. 1~2 回程度 1. なかった]

問 9. 共同化科目受講のために教養教育共同化施設「稲盛記念会館」を利用した方にお聞きます。

問 9-1. 建物や設備に対する満足度を 5 段階で教えてください。

[5. とても満足 4. やや満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. とても不満]

問 9-2. 共同化科目受講日に自習室を利用しましたか。

[5. ほぼ毎週 4. 2 週に 1 回程度 3. これまで数回程度 2. 利用したことはない 1. 自習室を知らなかった]

問 9-3. [工繊大生対象] 共同化科目履修のために京都工芸繊維大学から「稲盛記念会館」へ移動している方のみ教えてください。それ以外の方は、問 10 に進んでください。

問 9-3-1. 移動のための(通常の)交通手段は何ですか。 [1. 自転車 2. 徒歩 3. 地下鉄 4. その他]

問 9-3-2. 通常、共同化科目の受講後に京都工芸繊維大学へ向かいますか。 [1. はい 2. いいえ]

問 9-3-3. 2 つのキャンパスで受講することに関する意見を自由に書いてください。

問 10. 自由記述欄(その他の意見や要望があれば書いてください。)

以上です。ご協力ありがとうございました。

編集：
発行：



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

所在地：〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1番5
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

T E L：075-703-4925

F A X：075-703-4979

H P：http://kyoto3univ.jp/

発行日：令和2年3月

デザイン：株式会社 谷印刷所